

8.2 平面領域の面積

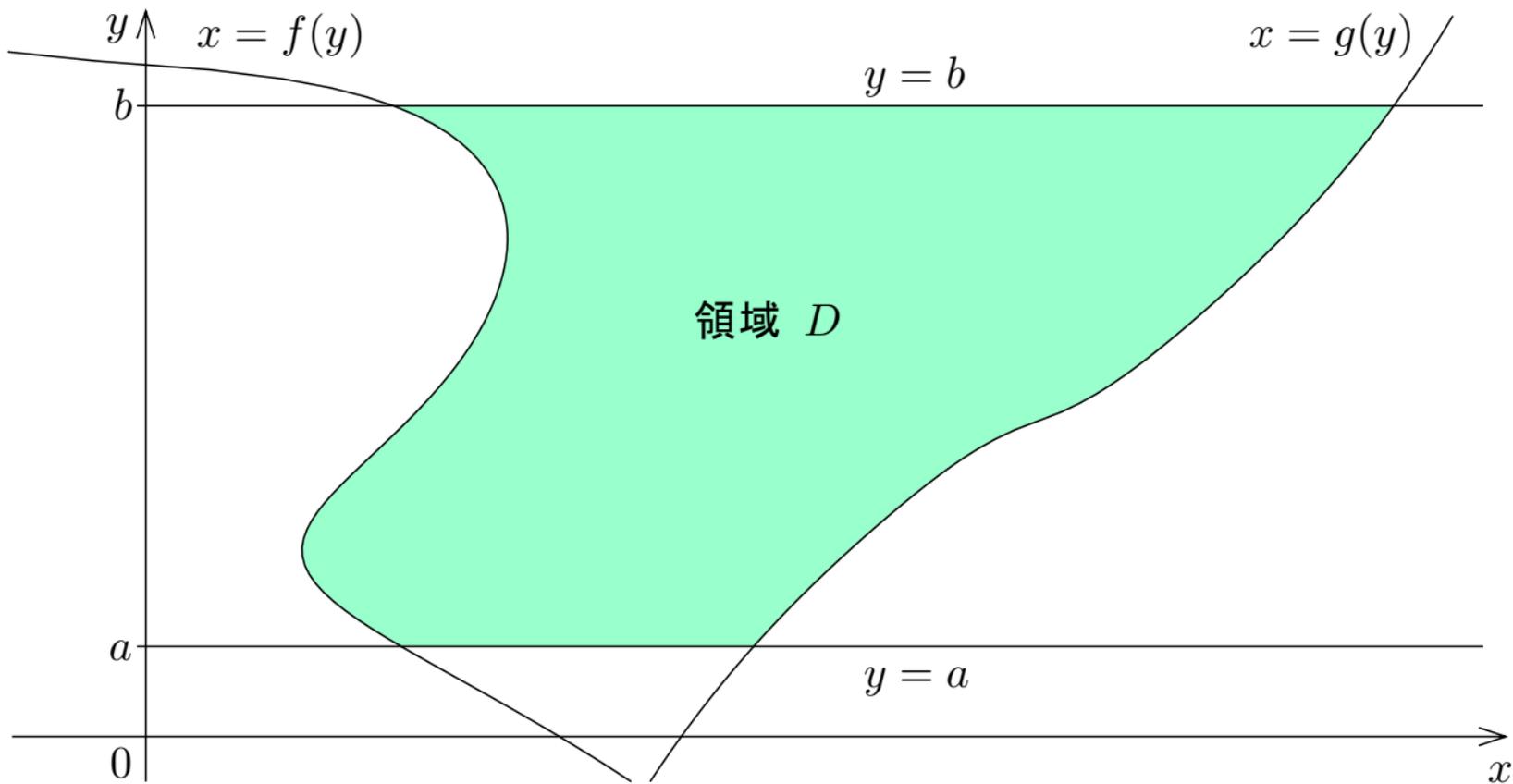
xy 座標平面における領域の面積を計算するために y で積分することがある.

実数 a と b について $a \leq b$ とする. また, 関数 f と g とは a から b まで積分可能であり, 区間 $[a, b]$ の各実数 y について $f(y) \leq g(y)$ とする. xy 座標平面において, 連立不等式

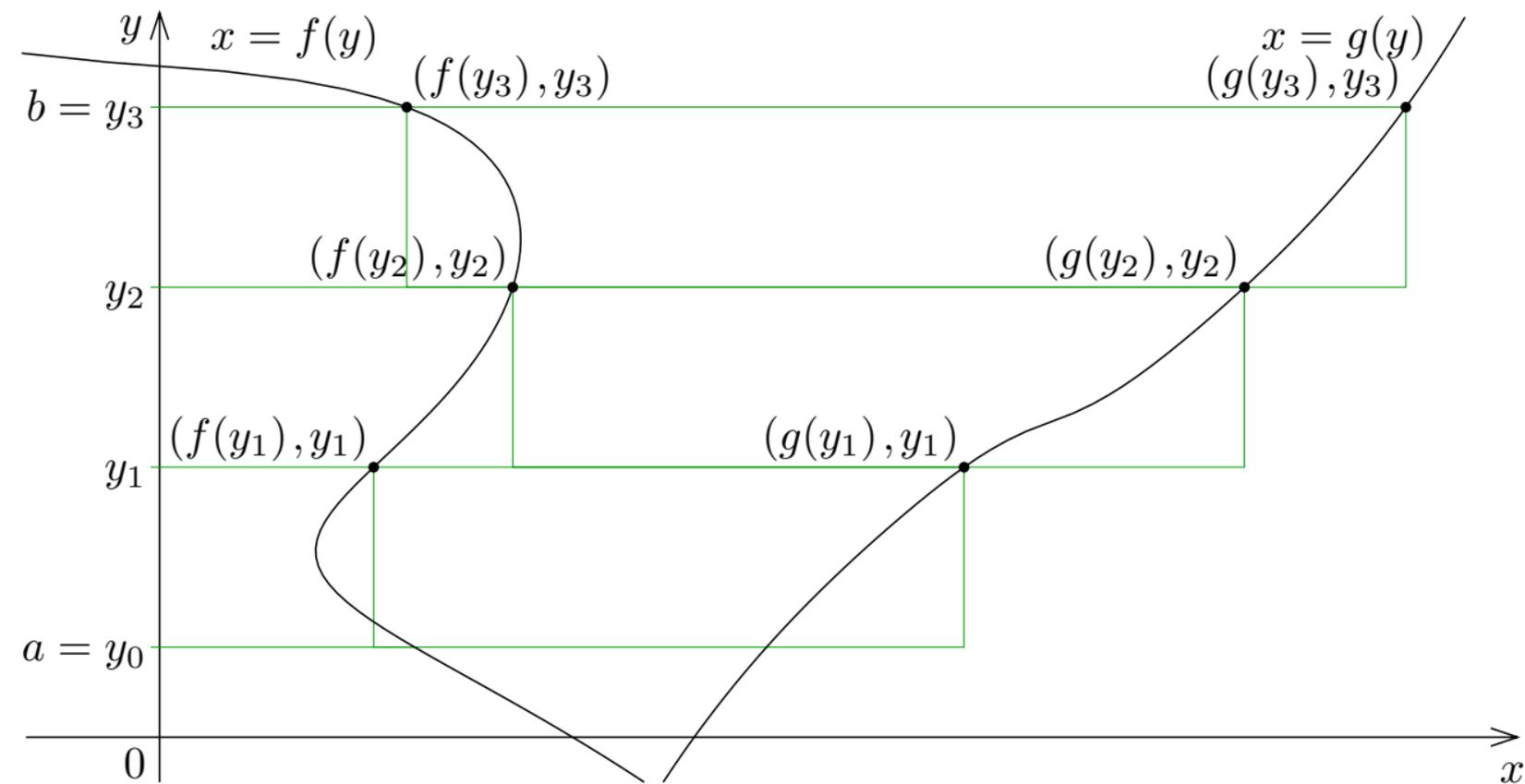
$$a \leq y \leq b \text{ かつ } f(y) \leq x \leq g(y)$$

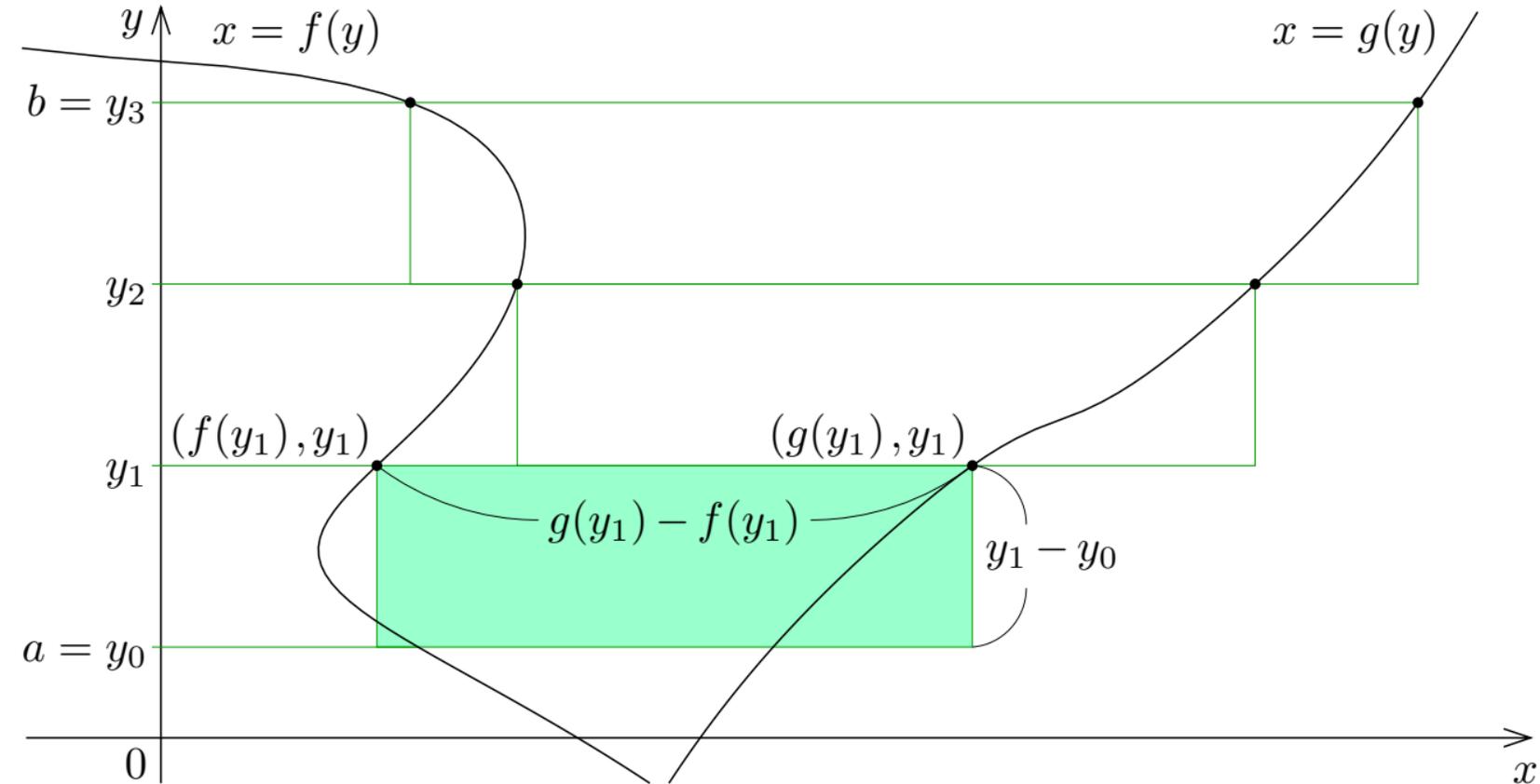
で表される領域を D の面積を考える.

例えば領域 D が下図の明緑色の図形であるとする.



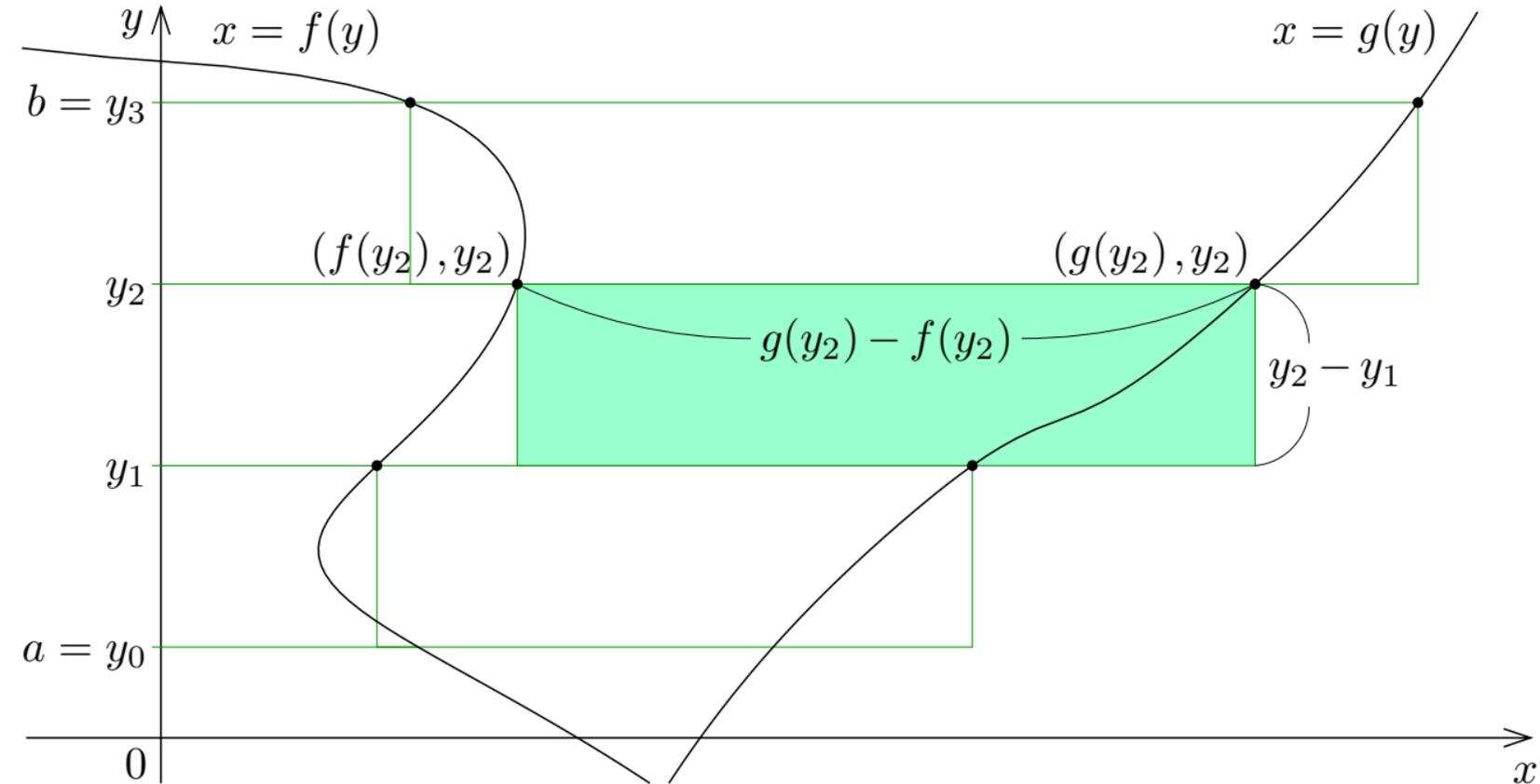
$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 = b$ である実数 y_0, y_1, y_2, y_3 をとり、下図の状況を考える。





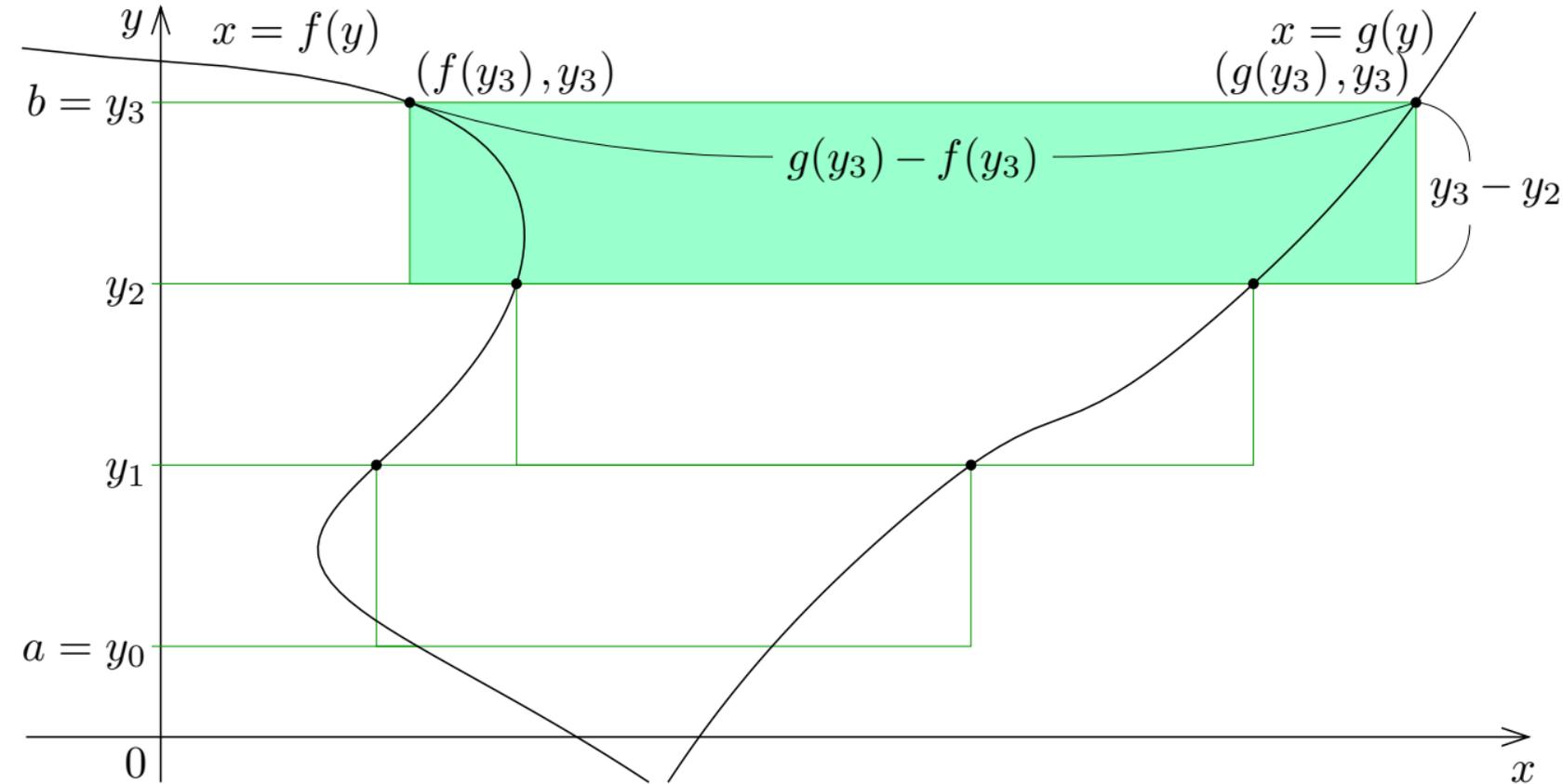
上図の明緑色の長方形の面積は

$$\{g(y_1) - f(y_1)\}(y_1 - y_0) .$$



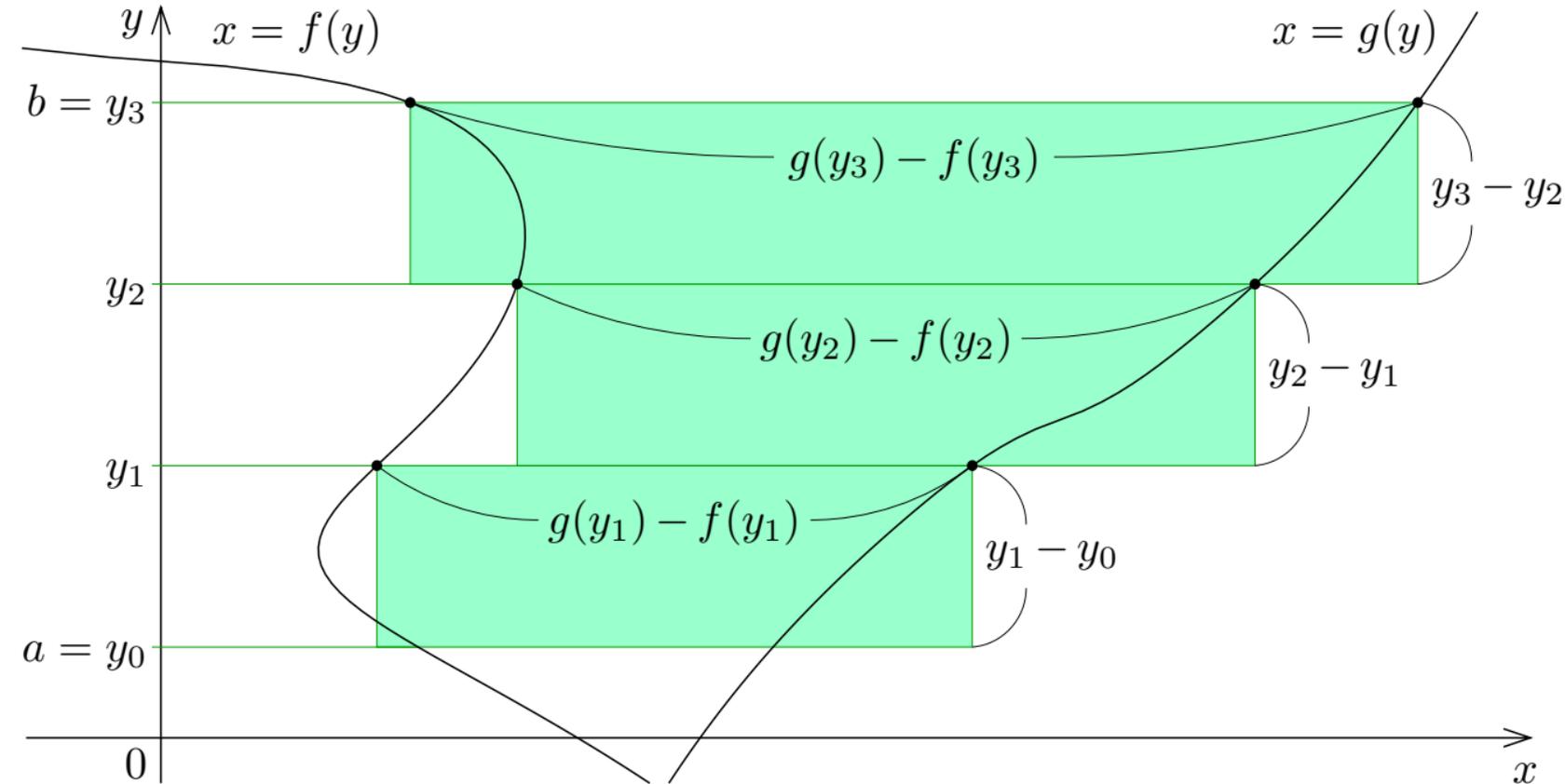
上図の明緑色の長方形の面積は

$$\{g(y_2) - f(y_2)\}(y_2 - y_1) .$$



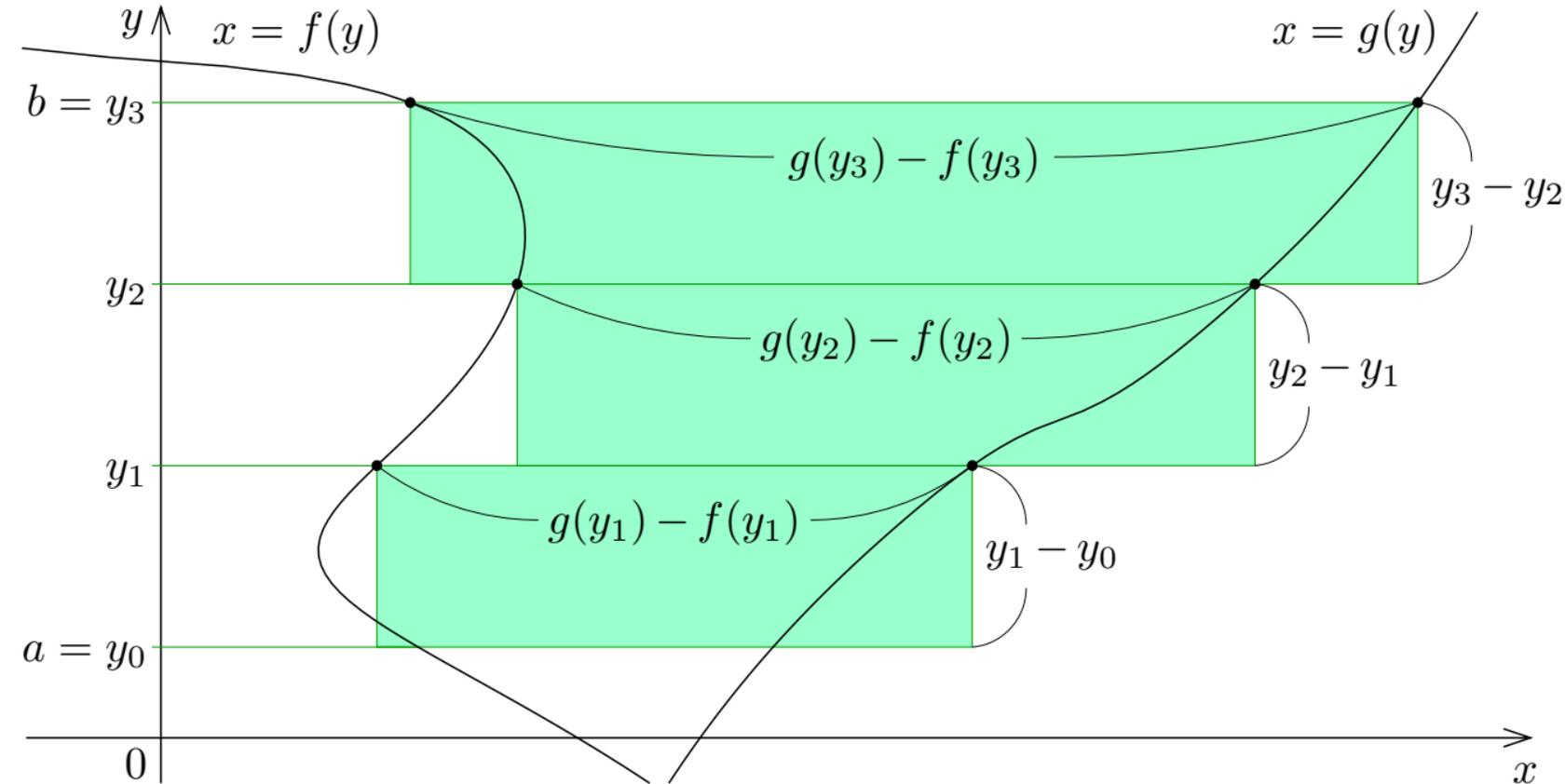
上図の明緑色の長方形の面積は

$$\{g(y_3) - f(y_3)\}(y_3 - y_2) .$$



上図の明緑色の 3 個の長方形を併せた図形の面積は

$$\{g(y_1) - f(y_1)\}(y_1 - y_0) + \{g(y_2) - f(y_2)\}(y_2 - y_1) + \{g(y_3) - f(y_3)\}(y_3 - y_2) .$$



上図の明緑色の 3 個の長方形を併せた図形の面積 S_3 は

$$S_3 = \sum_{k=1}^3 [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})] .$$

正の各自然数 n に対して,

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_{n-1} \leq y_n = b$$

である実数 $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{n-1}, y_n$ をとり, 関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和

$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})]$$

を考える.

正の各自然数 n に対して,

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_{n-1} \leq y_n = b$$

である実数 $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{n-1}, y_n$ をとり, 関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和

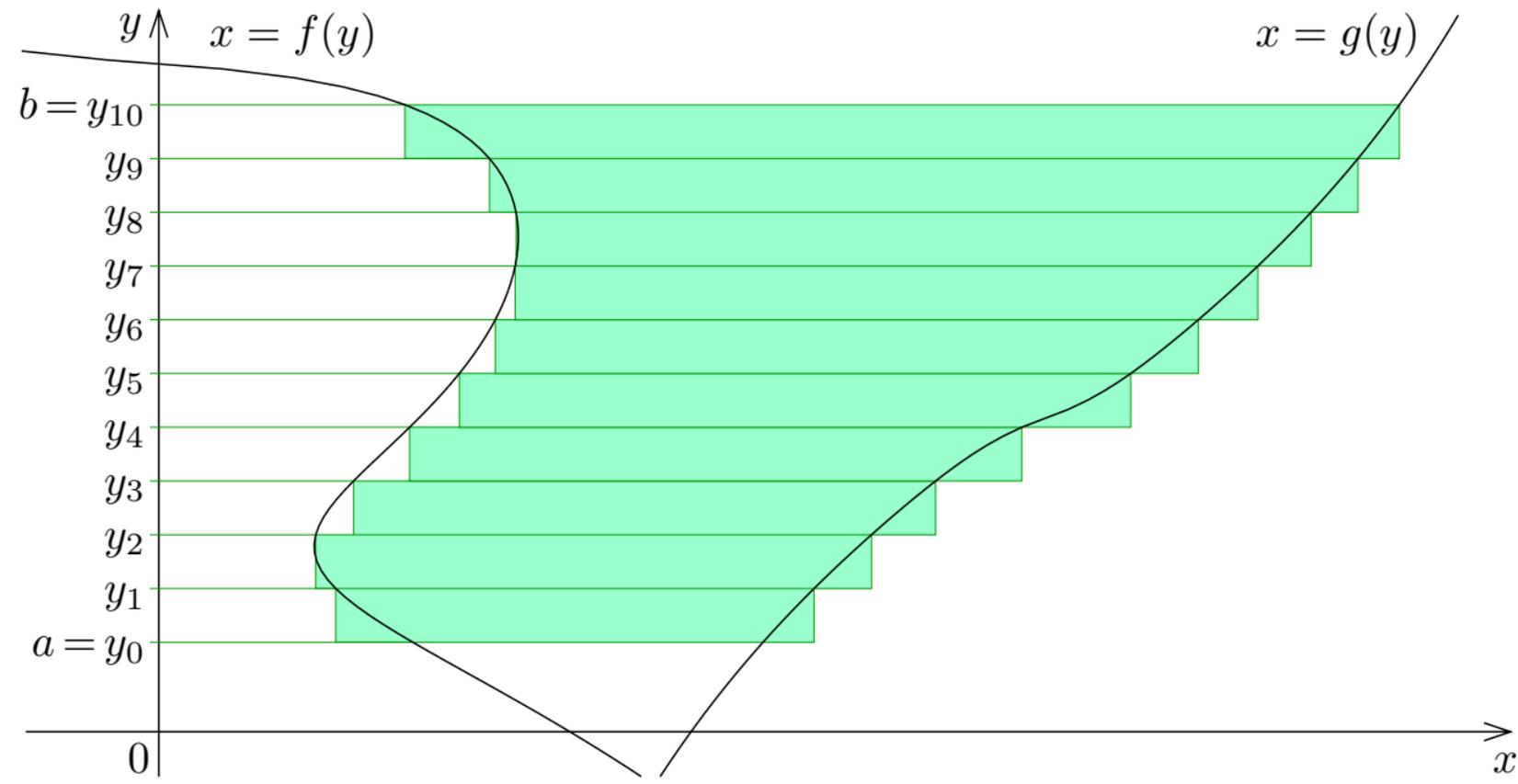
$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})]$$

を考える.

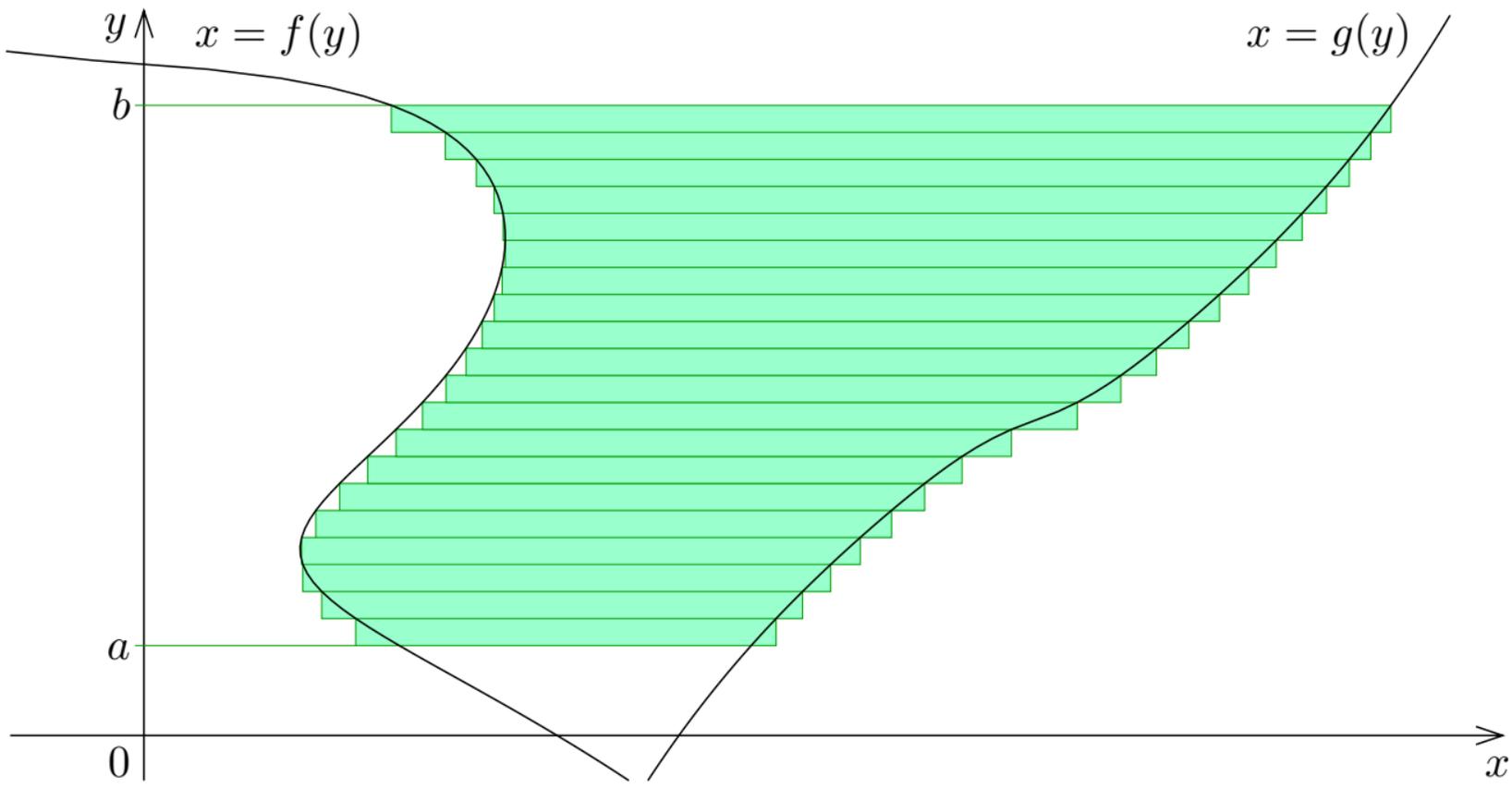
$$\delta_n = \max\{y_1 - y_0, y_2 - y_1, y_3 - y_2, \dots, y_n - y_{n-1}\}$$

について, $n \rightarrow \infty$ のとき $\delta_n \rightarrow 0$ とする. つまり, $n \rightarrow \infty$ のとき $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{n-1}, y_n$ の間隔は 0 に限りなく近づくとする.

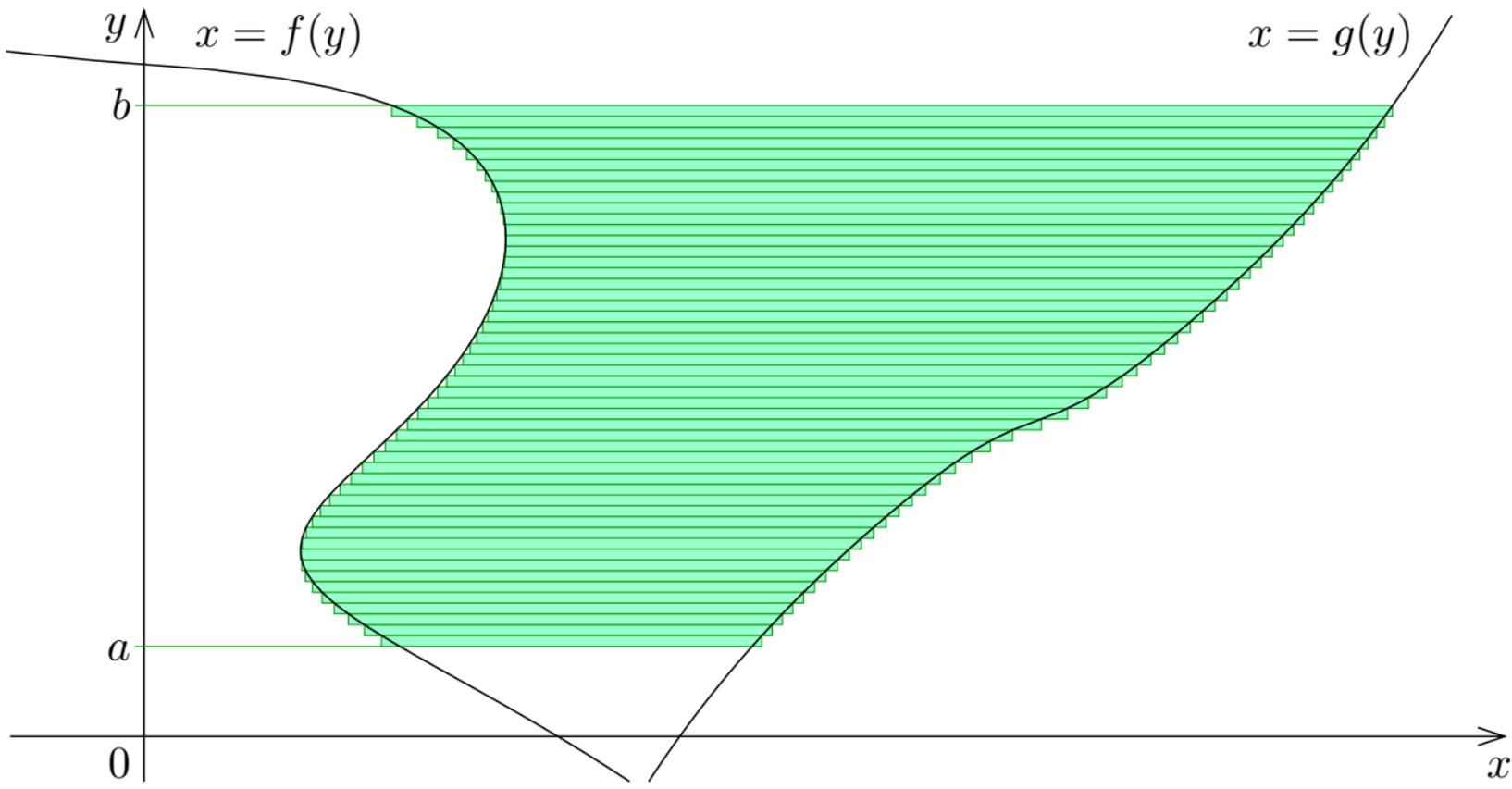
$n = 10$ のとき, 下図の 10 個の明緑色の長方形を併せた図形の面積は関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_{10} = \sum_{k=1}^{10} [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})]$ である.



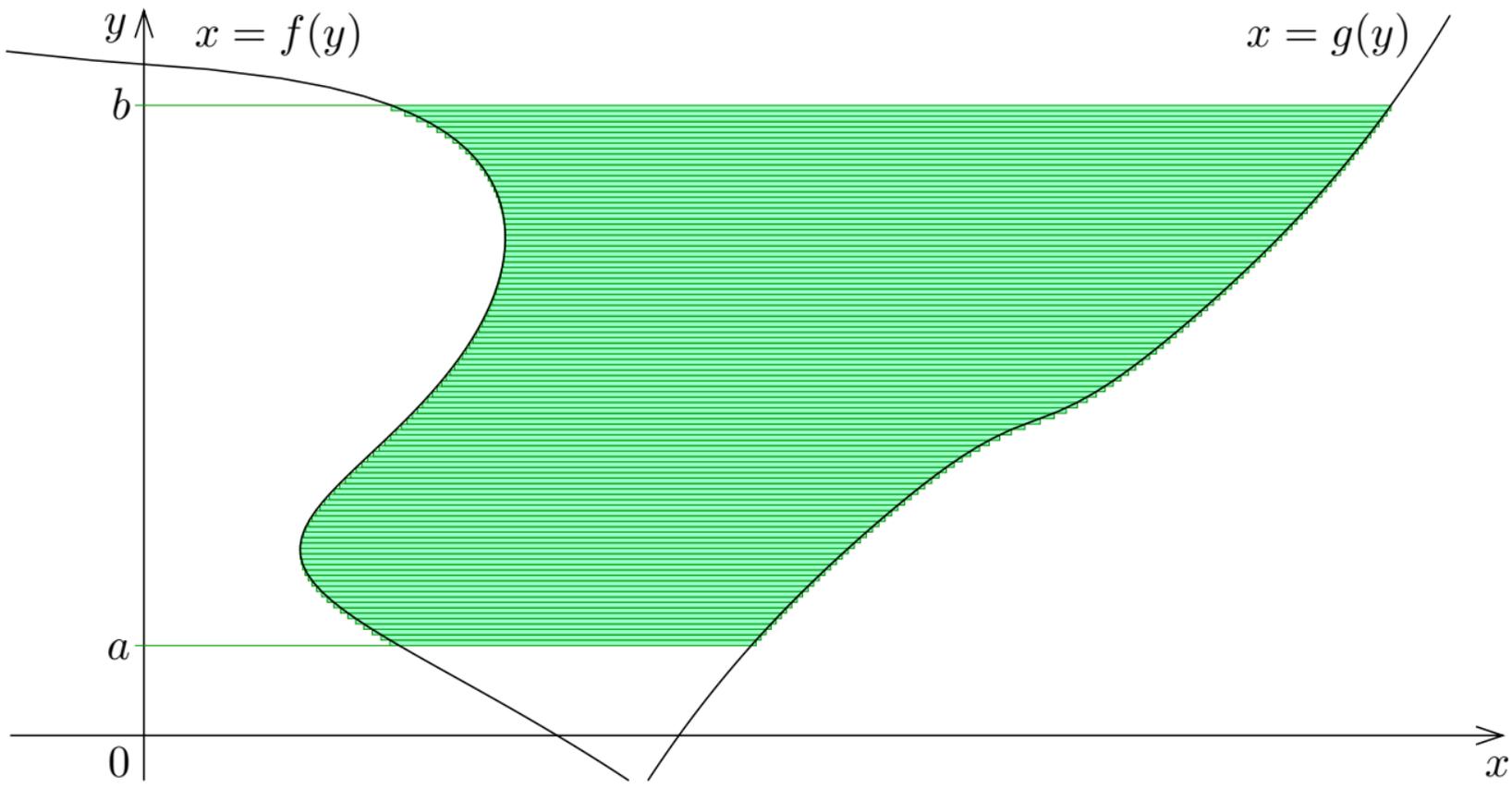
$n = 20$ のとき, 下図の 20 個の明緑色の長方形を併せた図形の面積は関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_{20} = \sum_{k=1}^{20} [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})]$ である.



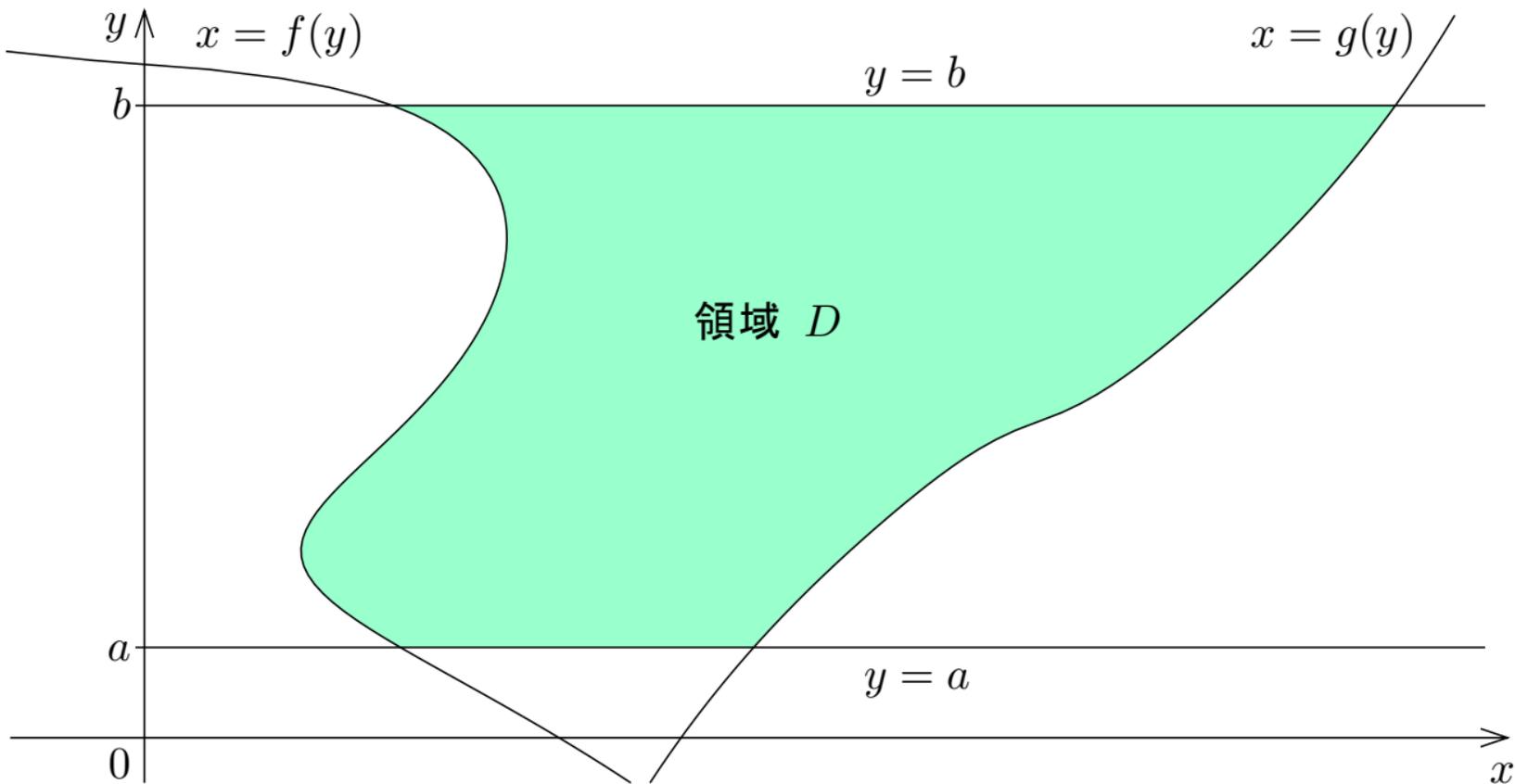
$n = 50$ のとき, 下図の 50 個の明緑色の長方形を併せた図形の面積は関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_{50} = \sum_{k=1}^{50} [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})]$ である.

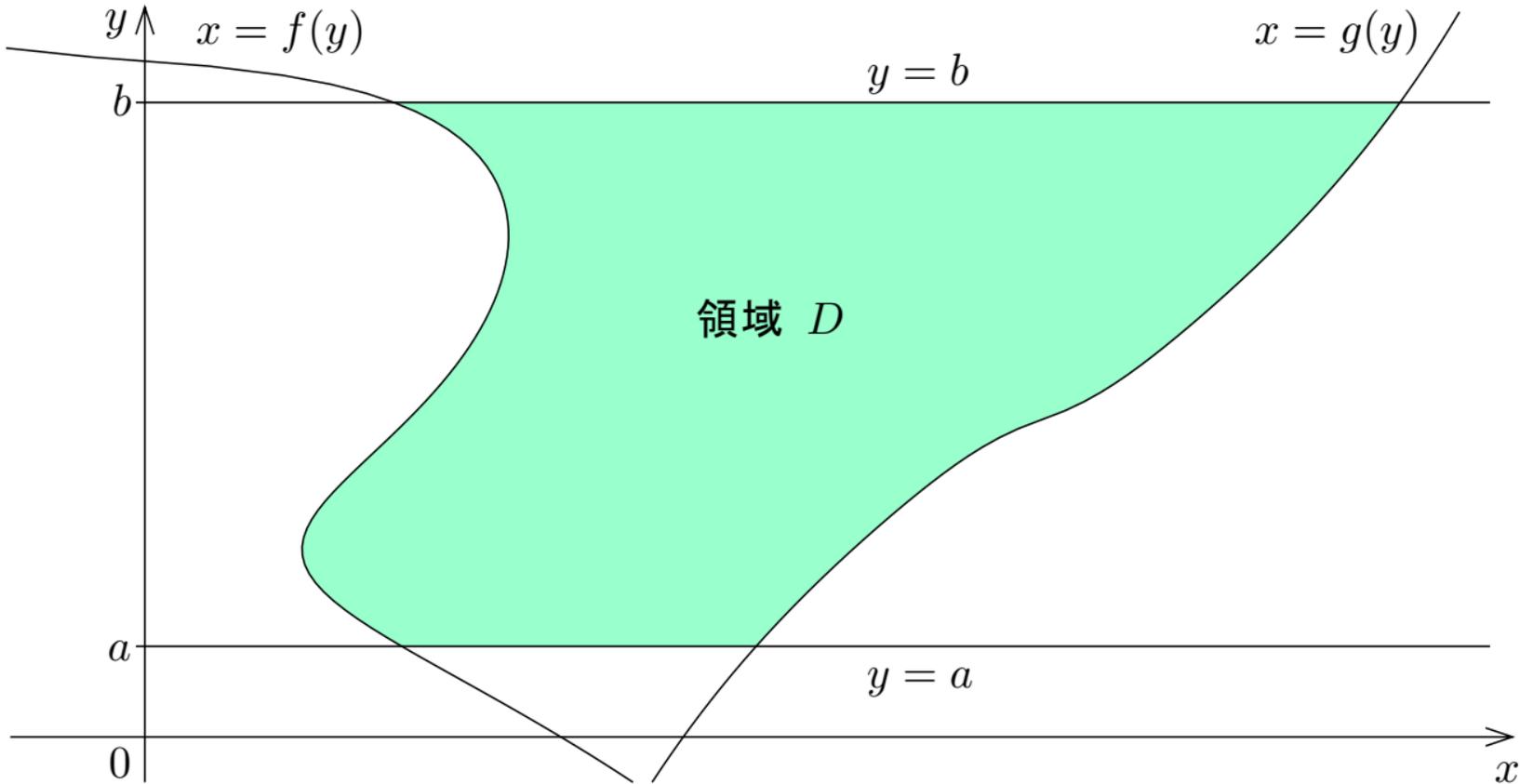


$n = 100$ のとき, 下図の 100 個の明緑色の長方形を併せた図形の面積は関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_{100} = \sum_{k=1}^{100} [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})]$ である.



関数 $g(x) - f(x)$ のリーマン和 $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(x_k) - f(x_k)\}(x_k - x_{k-1})]$ は $n \rightarrow \infty$ のとき下図の領域 D の面積に限りなく近づいていく.





つまり、上図の領域 D の面積は、関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和

$$S_n = \sum_{k=1}^n [g(y_k) - f(y_k)] (y_k - y_{k-1}) \quad \text{の極限值} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} S_n \quad \text{である.}$$

領域 D の面積は関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$ の極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$ である.

領域 D の面積は関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$ の極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$ である. 関数 $f(y)$ と $g(y)$ とが a から b まで積分可能なので, 関数 $g(y) - f(y)$ も a から b まで積分可能である.

領域 D の面積は関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$ の極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$ である. 関数 $f(y)$ と $g(y)$ とが a から b まで積分可能なので, 関数 $g(y) - f(y)$ も a から b まで積分可能である. $\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$ なので, 関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$ は $n \rightarrow \infty$ のとき定積分 $\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$ に収束する:

$$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy .$$

領域 D の面積は関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$ の極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$ である. 関数 $f(y)$ と $g(y)$ とが a から b まで積分可能なので, 関数 $g(y) - f(y)$ も a から b まで積分可能である. $\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$ なので, 関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン

和 $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$ は $n \rightarrow \infty$ のとき定積分 $\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$ に収束する:

$$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy .$$

故に, 領域 D の面積は関数 $g(y) - f(y)$ の定積分 $\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$ である.

領域 D の面積は関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン和 $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$ の極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$ である. 関数 $f(y)$ と $g(y)$ とが a から b まで積分可能なので, 関数 $g(y) - f(y)$ も a から b まで積分可能である. $\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$ なので, 関数 $g(y) - f(y)$ のリーマン

和 $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$ は $n \rightarrow \infty$ のとき定積分 $\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$ に収束する:

$$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy .$$

故に, 領域 D の面積は関数 $g(y) - f(y)$ の定積分 $\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$ である. このようにして次の定理が成り立つ.

定理 実数 a と b について $a \leq b$ とする. また, 関数 f と g とは a から b まで積分可能で, 区間 $[a, b]$ の各実数 y について $f(y) \leq g(y)$ とする. xy 座標平面において連立不等式

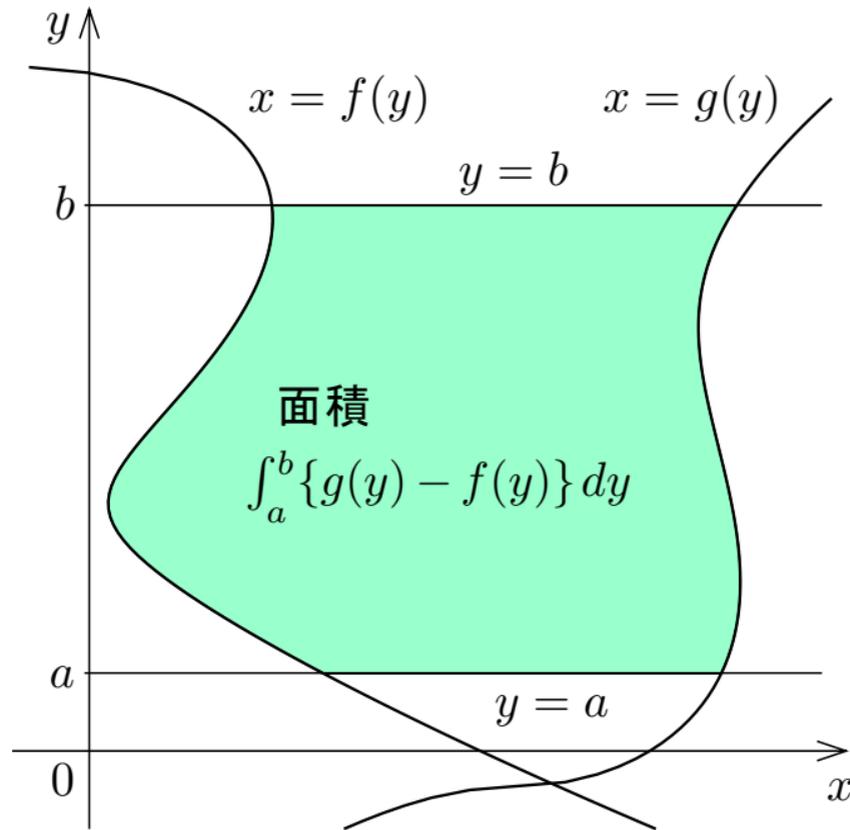
$$a \leq y \leq b \text{ かつ } f(y) \leq x \leq g(y)$$

で表される領域の面積は

$$\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$$

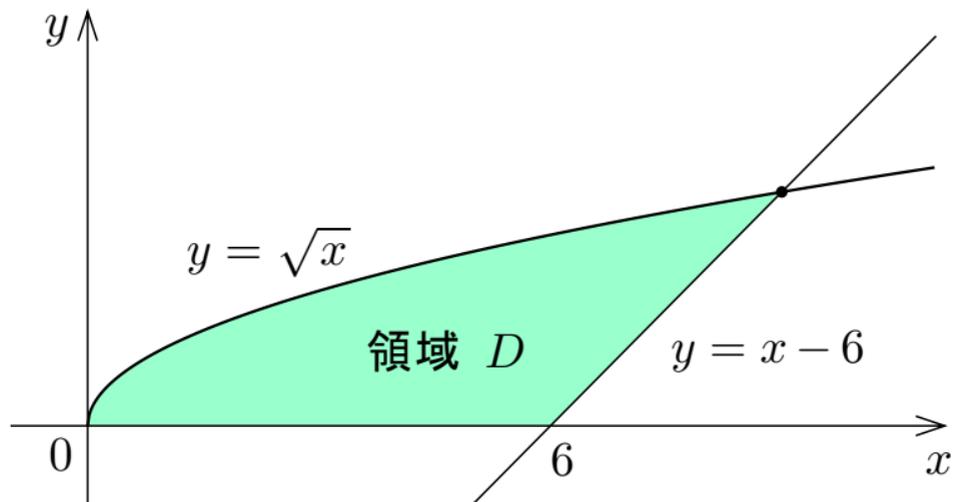
である.

この定理において, 領域の点の y 座標の範囲と, その範囲で $f(y) \leq g(y)$ であるかどうかには注意すること.



例 xy 座標平面において関数 $y = \sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = x - 6$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域 D の面積を求める.

例 xy 座標平面において関数 $y = \sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = x - 6$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域 D の面積を求める.



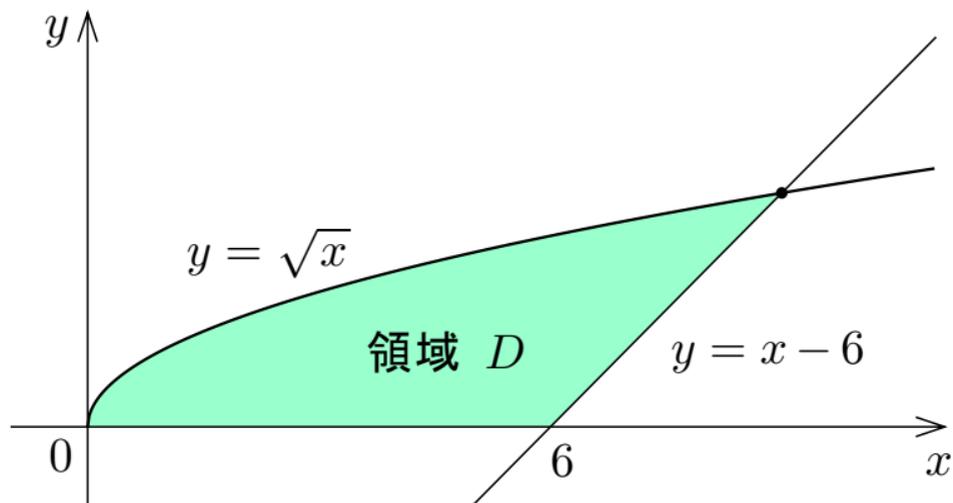
例 xy 座標平面において関数 $y = \sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = x - 6$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域 D の面積を求める.

$x \geq 0$ かつ $y \geq 0$ のとき

$$y = \sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

また,

$$y = x - 6 \iff x = y + 6 .$$



例 xy 座標平面において関数 $y = \sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = x - 6$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域 D の面積を求める.

$x \geq 0$ かつ $y \geq 0$ のとき

$$y = \sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

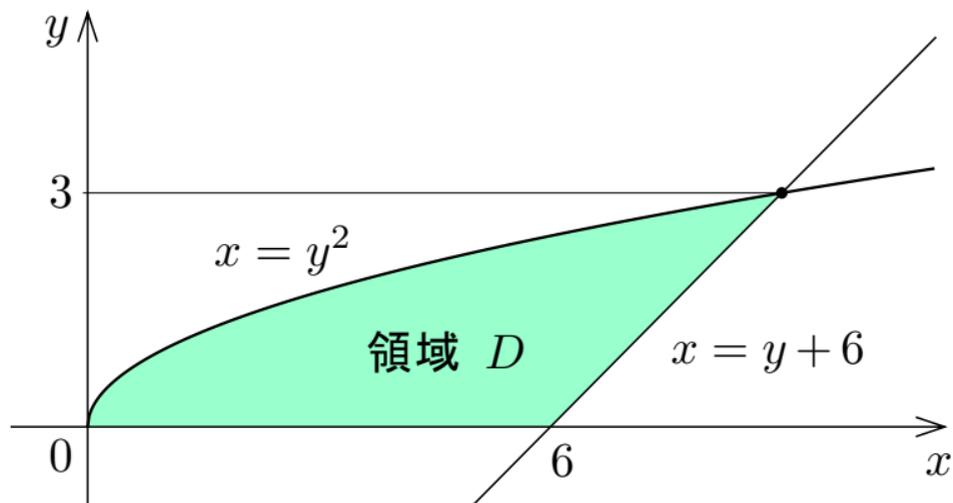
また,

$$y = x - 6 \iff x = y + 6 .$$

$x = y^2$ かつ $x = y + 6$ とすると, $y^2 = y + 6$, $y = 3, -2$;

更に $y \geq 0$ とすると $y = 3$.

領域 D の点の y 座標の範囲は $0 \leq y \leq 3$ で, この範囲で $y + 6 \geq y^2$.



例 xy 座標平面において関数 $y = \sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = x - 6$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域 D の面積を求める.

$x \geq 0$ かつ $y \geq 0$ のとき

$$y = \sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

また,

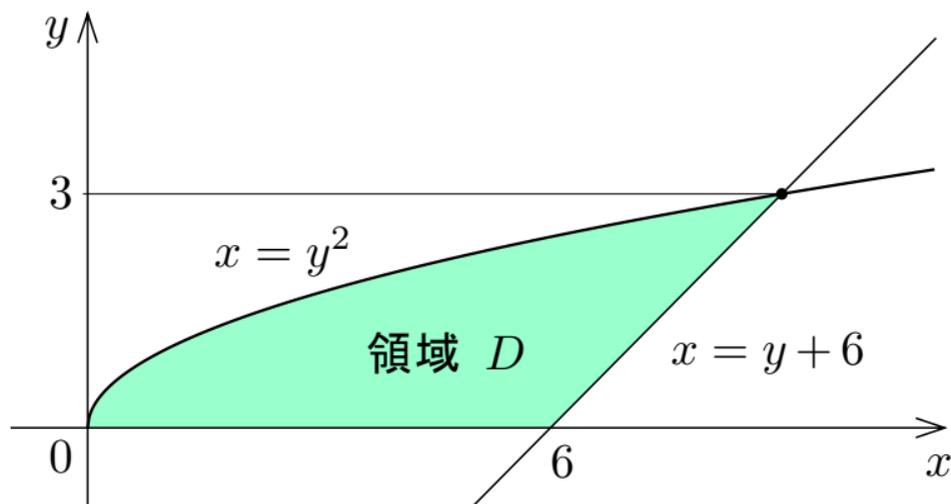
$$y = x - 6 \iff x = y + 6 .$$

$x = y^2$ かつ $x = y + 6$ とすると, $y^2 = y + 6$, $y = 3, -2$;

更に $y \geq 0$ とすると $y = 3$.

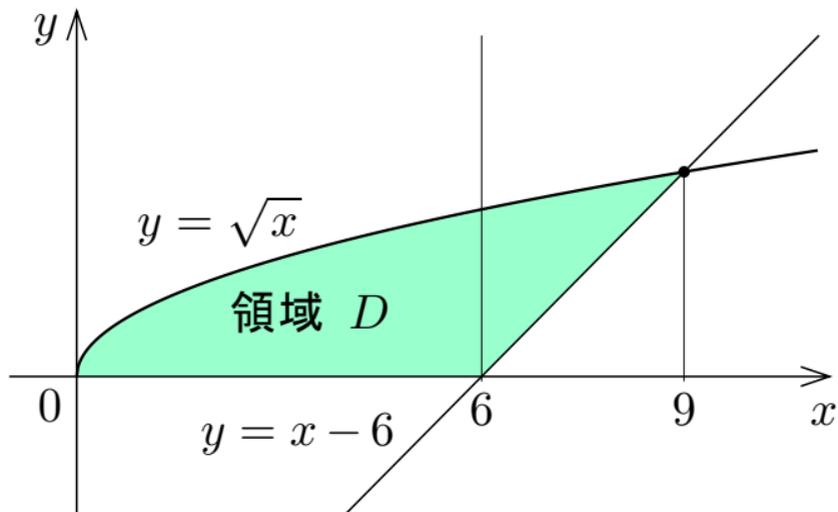
領域 D の点の y 座標の範囲は $0 \leq y \leq 3$ で, この範囲で $y + 6 \geq y^2$. 領域 D の面積は

$$\int_0^3 (y + 6 - y^2) dy = \left[\frac{1}{2}y^2 + 6y - \frac{1}{3}y^3 \right]_0^3 = \frac{27}{2} .$$



例 xy 座標平面において関数 $y = \sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = x - 6$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域 D の面積を求める.

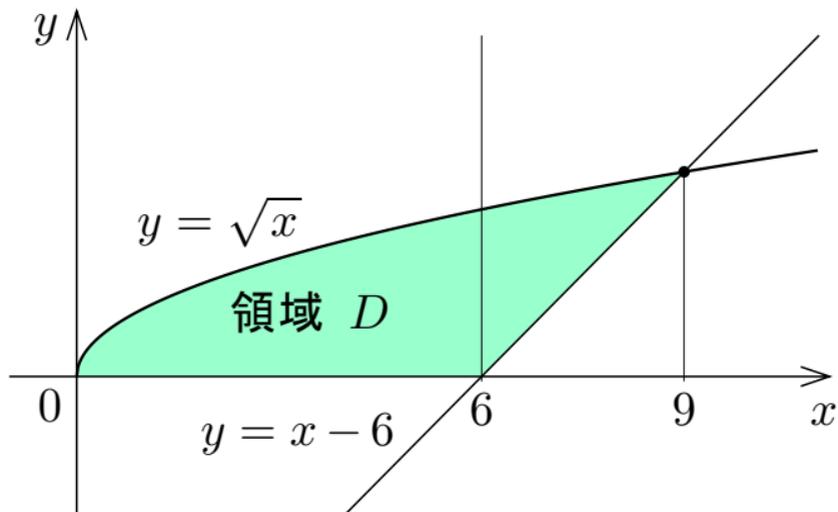
領域 D の面積を x について積分して求めるには, D を $0 \leq x \leq 6$ の部分と $6 \leq x \leq 9$ の部分とに分けて計算する.



例 xy 座標平面において関数 $y = \sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = x - 6$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域 D の面積を求める。

領域 D の面積を x について積分して求めるには、 D を $0 \leq x \leq 6$ の部分と $6 \leq x \leq 9$ の部分とに分けて計算する。

$$\begin{aligned} & \int_0^6 \sqrt{x} dx + \int_6^9 \{ \sqrt{x} - (x - 6) \} dx \\ &= \left[\frac{2}{3} x \sqrt{x} \right]_0^6 + \left[\frac{2}{3} x \sqrt{x} - \frac{1}{2} x^2 + 6x \right]_6^9 \\ &= 4\sqrt{6} + 6\sqrt{9} - \frac{81}{2} + 54 - 4\sqrt{6} + 18 - 36 \\ &= \frac{27}{2} . \end{aligned}$$



問8.2.1 xy 座標平面において関数 $y = -\sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = \frac{x}{2} - 4$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

$y = -\sqrt{x}$ のとき $y \leq 0$.
 $x \geq 0$ かつ $y \leq 0$ のとき

$$y = -\sqrt{x} \iff x = \quad .$$

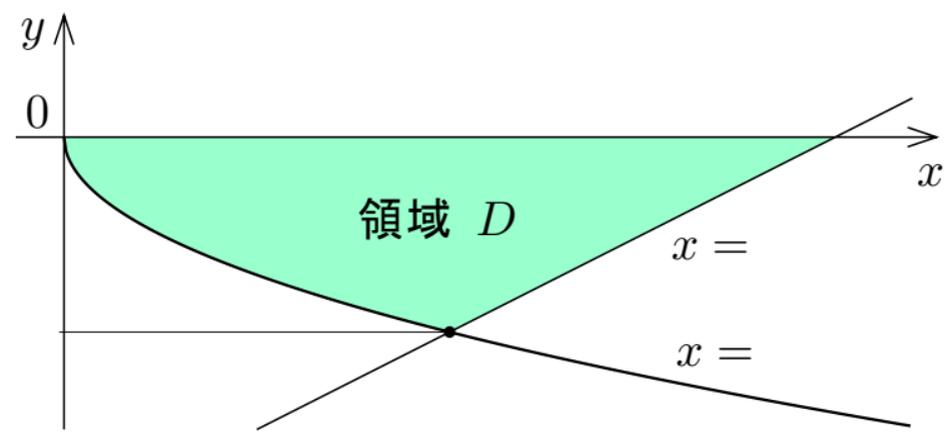
また,

$$y = \frac{x}{2} - 4 \iff x = \quad .$$

$x = \quad$ かつ $x = \quad$ とす

ると, $\quad = \quad$, $y = \quad$; 更に $y \leq 0$ とすると $y = \quad$. 領域 D の点の y 座標の範囲は $\leq y \leq 0$ で, この範囲で $\geq \quad$. 領域の面積は

$$\int^0 (\quad) dy =$$



問8.2.1 xy 座標平面において関数 $y = -\sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = \frac{x}{2} - 4$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

$y = -\sqrt{x}$ のとき $y \leq 0$.

$x \geq 0$ かつ $y \leq 0$ のとき

$$y = -\sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

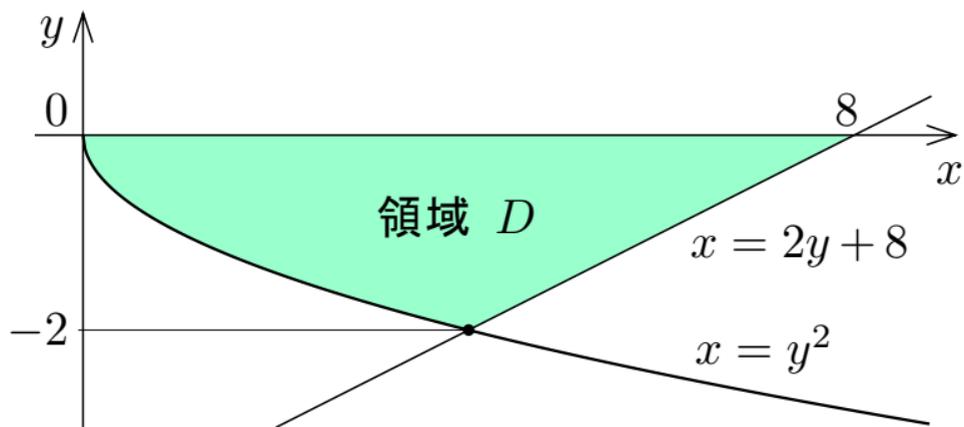
また,

$$y = \frac{x}{2} - 4 \iff x = 2y + 8 .$$

$x = y^2$ かつ $x = 2y + 8$ とす

ると, $y^2 = 2y + 8$, $y =$, ; 更に $y \leq 0$ とすると $y =$. 領域 D の点の y 座標の範囲は $\leq y \leq 0$ で, この範囲で $2y + 8$ y^2 . 領域の面積は

$$\int_{-2}^0 (\quad) dy = \left[\quad \right]_{-2}^0 = .$$



問8.2.1 xy 座標平面において関数 $y = -\sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = \frac{x}{2} - 4$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

$y = -\sqrt{x}$ のとき $y \leq 0$.

$x \geq 0$ かつ $y \leq 0$ のとき

$$y = -\sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

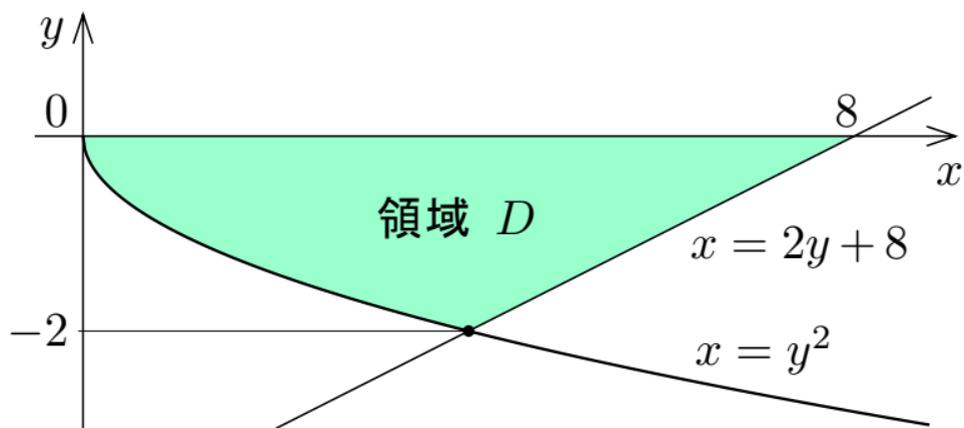
また,

$$y = \frac{x}{2} - 4 \iff x = 2y + 8 .$$

$x = y^2$ かつ $x = 2y + 8$ とす

ると, $y^2 = 2y + 8$, $y = 4, -2$; 更に $y \leq 0$ とすると $y = -2$. 領域 D の点の y 座標の範囲は $-2 \leq y \leq 0$ で, この範囲で $2y + 8 \geq y^2$. 領域の面積は

$$\int_{-2}^0 (\quad) dy = \left[\quad \right]_{-2}^0 = \quad .$$



問8.2.1 xy 座標平面において関数 $y = -\sqrt{x}$ のグラフと関数 $y = \frac{x}{2} - 4$ のグラフと x 軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

$y = -\sqrt{x}$ のとき $y \leq 0$.

$x \geq 0$ かつ $y \leq 0$ のとき

$$y = -\sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

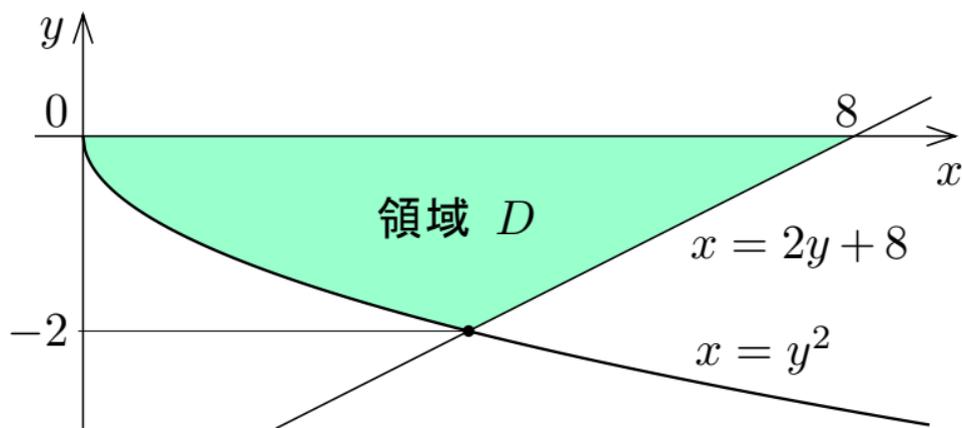
また,

$$y = \frac{x}{2} - 4 \iff x = 2y + 8 .$$

$x = y^2$ かつ $x = 2y + 8$ とす

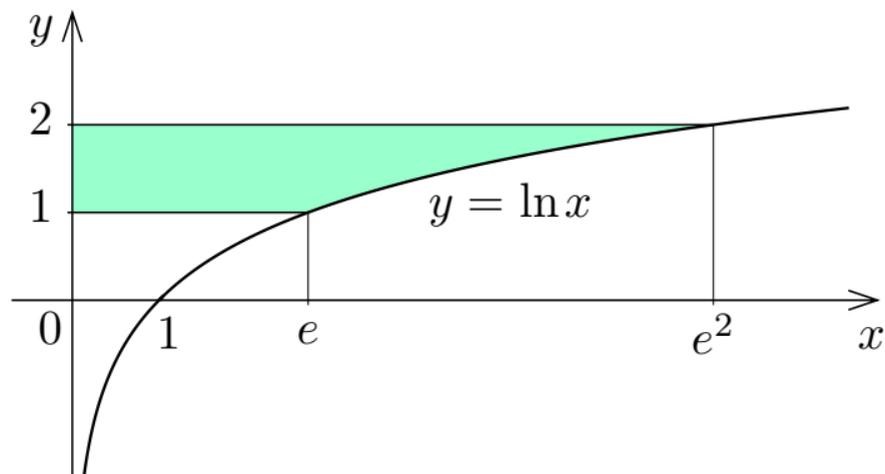
ると, $y^2 = 2y + 8$, $y = 4, -2$; 更に $y \leq 0$ とすると $y = -2$. 領域 D の点の y 座標の範囲は $-2 \leq y \leq 0$ で, この範囲で $2y + 8 \geq y^2$. 領域の面積は

$$\int_{-2}^0 (2y + 8 - y^2) dy = \left[y^2 + 8y - \frac{1}{3}y^3 \right]_{-2}^0 = \frac{28}{3} .$$



終

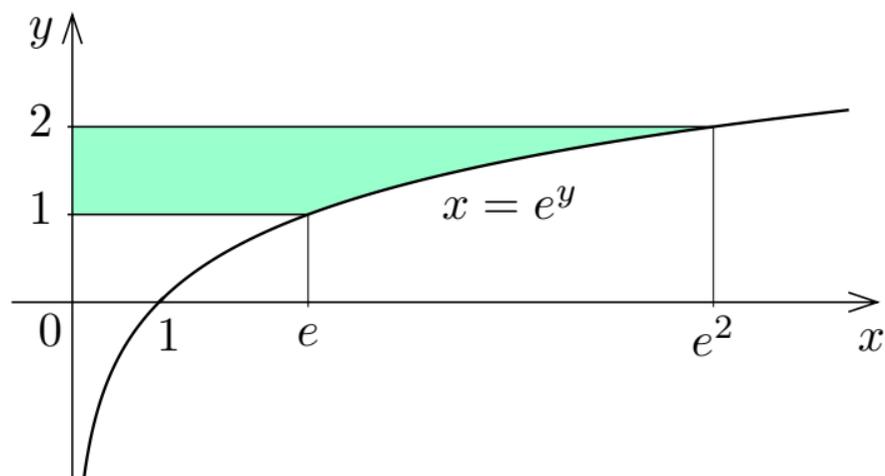
例 xy 座標平面において関数 $y = \ln x$ ($x > 0$) のグラフと直線 $y = 1$ と直線 $y = 2$ と y 軸とで囲まれる領域の面積を求める.



例 xy 座標平面において関数 $y = \ln x$ ($x > 0$) のグラフと直線 $y = 1$ と直線 $y = 2$ と y 軸とで囲まれる領域の面積を求める.

正の各実数 x 及び各実数 y について

$$y = \ln x \iff x = e^y .$$

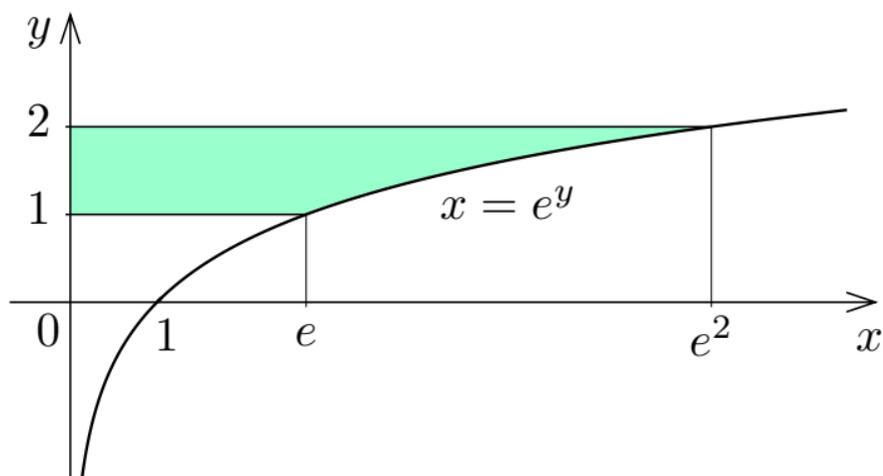


例 xy 座標平面において関数 $y = \ln x$ ($x > 0$) のグラフと直線 $y = 1$ と直線 $y = 2$ と y 軸とで囲まれる領域の面積を求める.

正の各実数 x 及び各実数 y について

$$y = \ln x \iff x = e^y .$$

領域の点の y 座標の範囲は $1 \leq y \leq 2$. 各実数 y について $e^y > 0$.



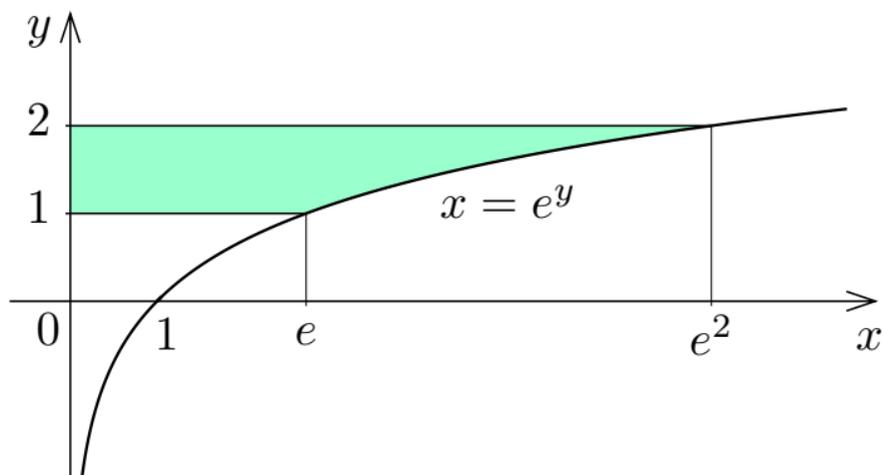
例 xy 座標平面において関数 $y = \ln x$ ($x > 0$) のグラフと直線 $y = 1$ と直線 $y = 2$ と y 軸とで囲まれる領域の面積を求める.

正の各実数 x 及び各実数 y について

$$y = \ln x \iff x = e^y .$$

領域の点の y 座標の範囲は $1 \leq y \leq 2$. 各実数 y について $e^y > 0$. 領域の面積は

$$\int_1^2 e^y dy = [e^y]_1^2 = e^2 - e .$$



終

問8.2.2 xy 座標平面において関数 $y = e^x$ のグラフと直線 $y = e$ と直線 $y = e^2$ と y 軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

各実数 x 及び正の各実数 y について

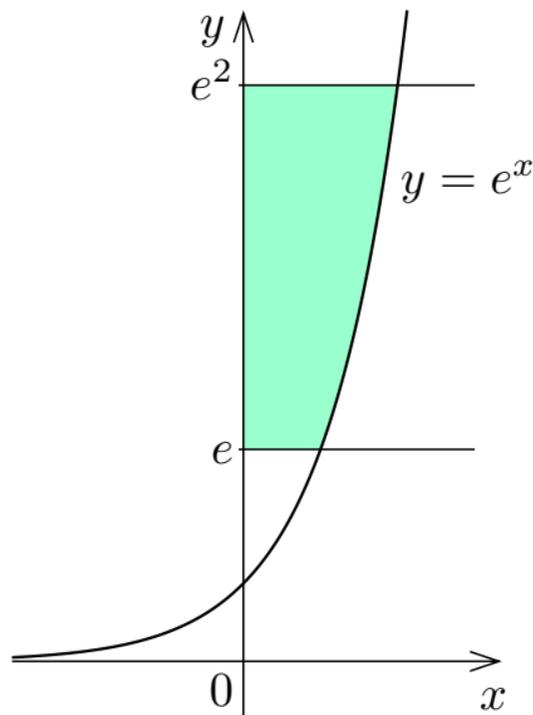
$$y \geq e^x \iff x \leq$$

領域を表す連立不等式は

$$e \leq y \leq e^2 \quad \text{かつ} \quad x \leq$$

領域の面積は

$$\int dy =$$



問8.2.2 xy 座標平面において関数 $y = e^x$ のグラフと直線 $y = e$ と直線 $y = e^2$ と y 軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

各実数 x 及び正の各実数 y について

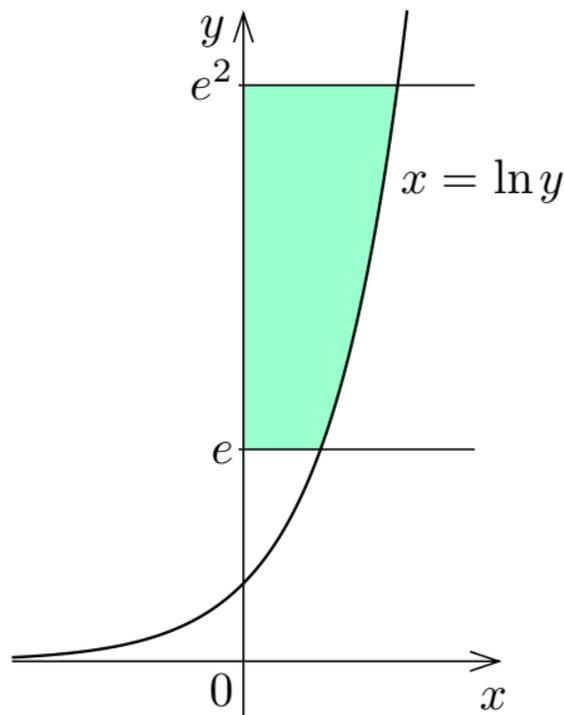
$$y \geq e^x \iff x \leq \ln y$$

領域を表す連立不等式は

$$e \leq y \leq e^2 \text{ かつ } 0 \leq x \leq \ln y .$$

領域の面積は

$$\int \quad dy =$$



問8.2.2 xy 座標平面において関数 $y = e^x$ のグラフと直線 $y = e$ と直線 $y = e^2$ と y 軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

各実数 x 及び正の各実数 y について

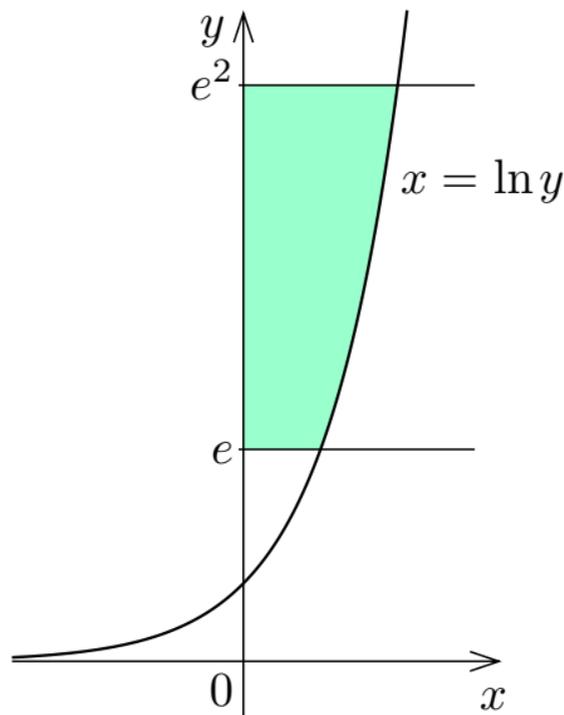
$$y \geq e^x \iff x \leq \ln y .$$

領域を表す連立不等式は

$$e \leq y \leq e^2 \text{ かつ } 0 \leq x \leq \ln y .$$

領域の面積は

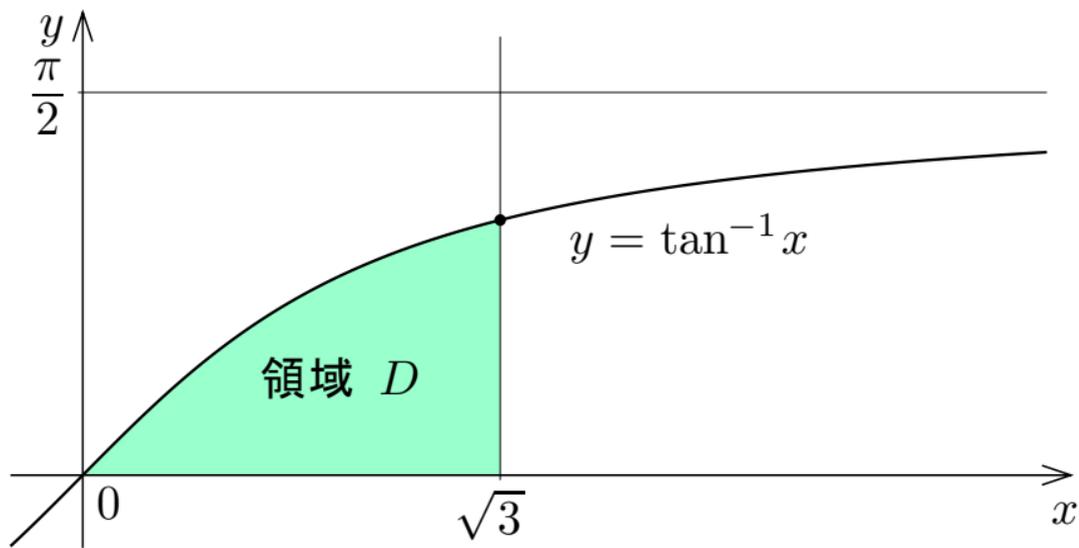
$$\begin{aligned} \int_e^{e^2} \ln y \, dy &= [y \ln y - y]_e^{e^2} \\ &= 2e^2 - e^2 - (e - e) \\ &= e^2 . \end{aligned}$$



終

例 xy 座標平面において不等式 $x \leq \sqrt{3}$ と $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$ との連立で表される領域 D の面積を求める.

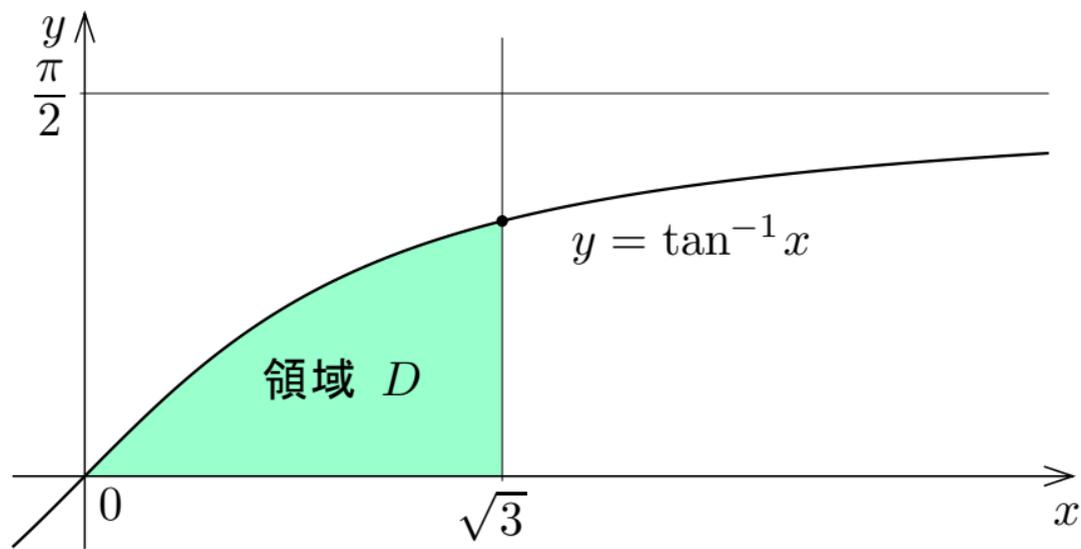
例 xy 座標平面において不等式 $x \leq \sqrt{3}$ と $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$ との連立で表される領域 D の面積を求める.



例 xy 座標平面において不等式 $x \leq \sqrt{3}$ と $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$ との連立で表される領域 D の面積を求める.

$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$ のとき

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$



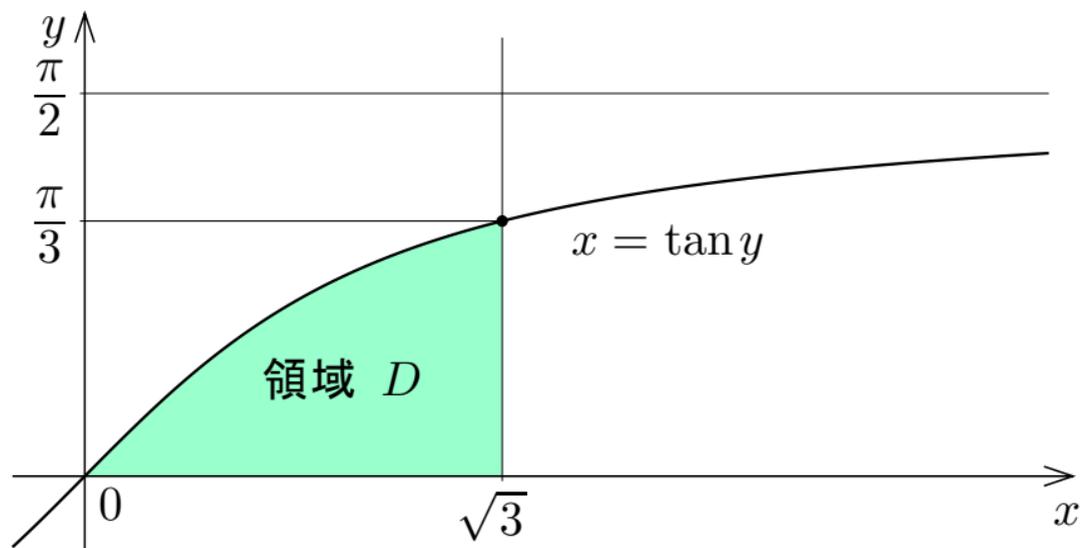
例 xy 座標平面において不等式 $x \leq \sqrt{3}$ と $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$ との連立で表される領域 D の面積を求める.

$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$ のとき

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$

関数 $y = \tan^{-1} x$ について, $x = \sqrt{3}$ のとき

$$y = \tan^{-1} \sqrt{3} = \frac{\pi}{3} .$$



例 xy 座標平面において不等式 $x \leq \sqrt{3}$ と $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$ との連立で表される領域 D の面積を求める.

$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$ のとき

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$

関数 $y = \tan^{-1} x$ につ

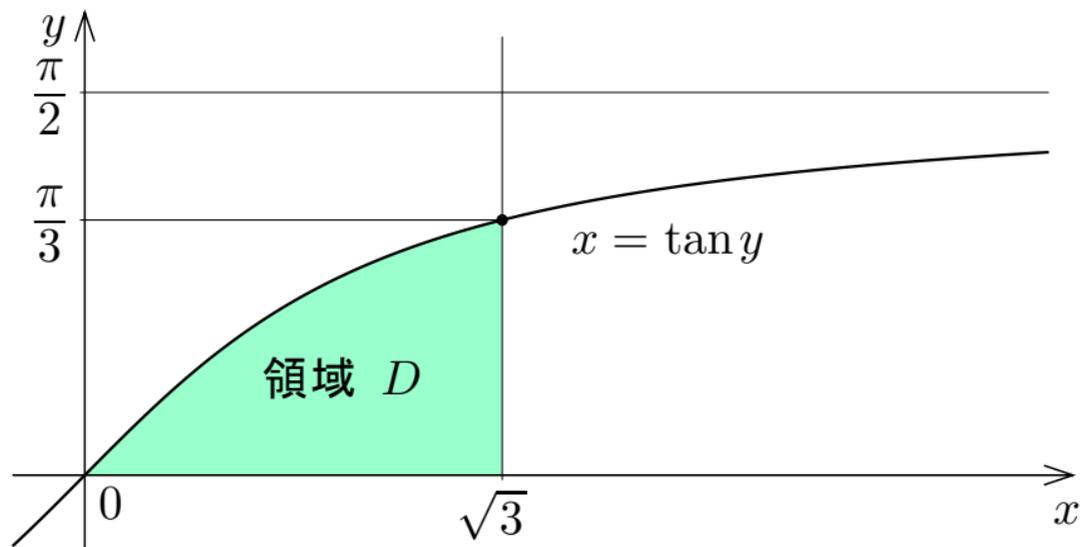
いて, $x = \sqrt{3}$ のとき

$$y = \tan^{-1} \sqrt{3} = \frac{\pi}{3} .$$

領域 D の y 座標の範囲は

$$0 \leq y \leq \frac{\pi}{3} \text{ であり, この}$$

範囲で $\tan y \leq \sqrt{3}$.



例 xy 座標平面において不等式 $x \leq \sqrt{3}$ と $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$ との連立で表される領域 D の面積を求める.

$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$ のとき

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$

関数 $y = \tan^{-1} x$ につ

いて, $x = \sqrt{3}$ のとき

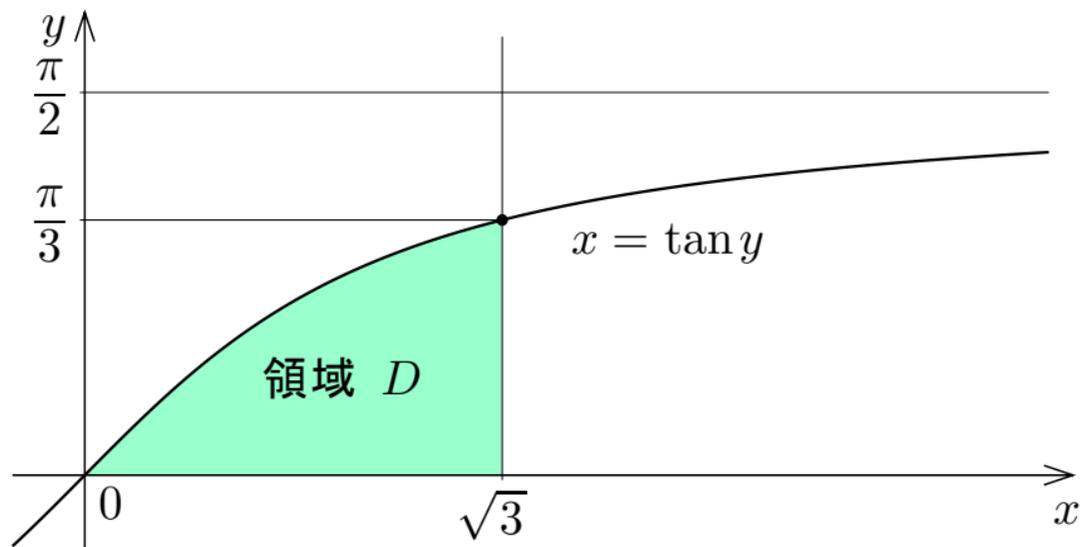
$$y = \tan^{-1} \sqrt{3} = \frac{\pi}{3} .$$

領域 D の y 座標の範囲は

$$0 \leq y \leq \frac{\pi}{3} \text{ であり, この}$$

範囲で $\tan y \leq \sqrt{3}$. 領域 D の面積は

$$\int_0^{\frac{\pi}{3}} (\sqrt{3} - \tan y) dy = \left[\frac{\pi}{3} \right]_0 =$$



例 xy 座標平面において不等式 $x \leq \sqrt{3}$ と $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$ との連立で表される領域 D の面積を求める.

$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$ のとき

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$

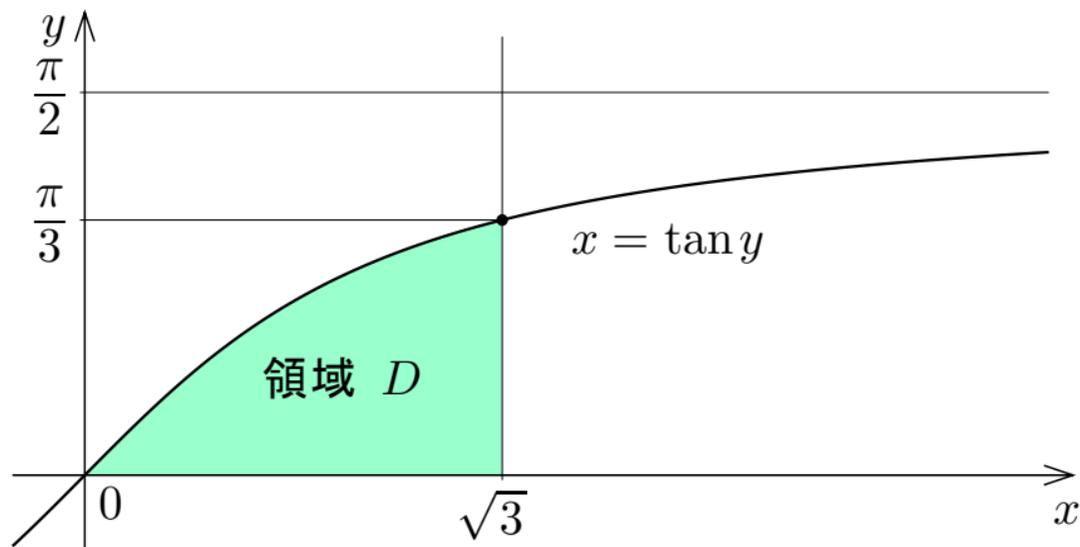
関数 $y = \tan^{-1} x$ について, $x = \sqrt{3}$ のとき

$$y = \tan^{-1} \sqrt{3} = \frac{\pi}{3} .$$

領域 D の y 座標の範囲は $0 \leq y \leq \frac{\pi}{3}$ であり, この

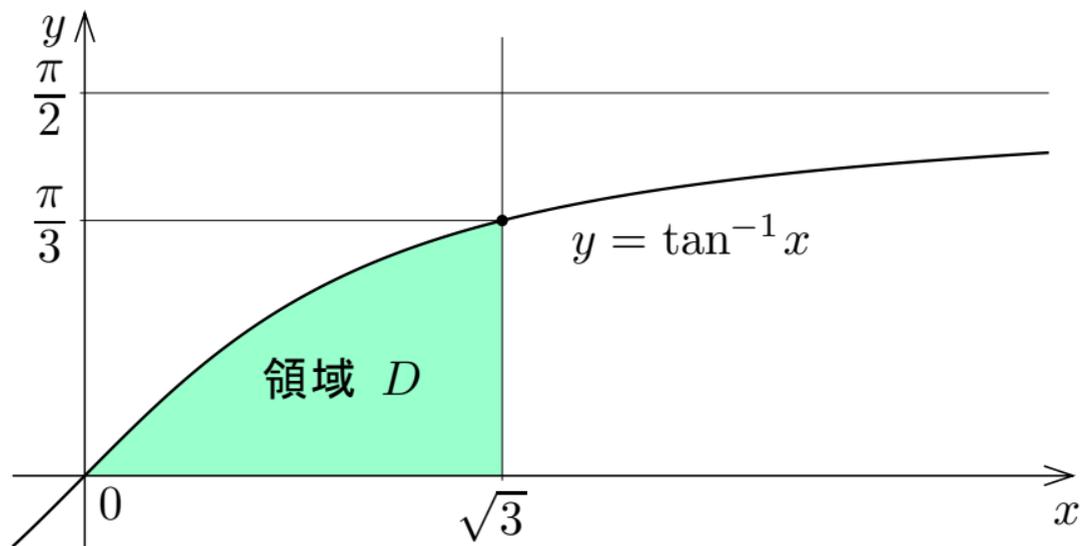
範囲で $\tan y \leq \sqrt{3}$. 領域 D の面積は

$$\int_0^{\frac{\pi}{3}} (\sqrt{3} - \tan y) dy = [\sqrt{3} y + \ln |\cos y|]_0^{\frac{\pi}{3}} = \frac{\sqrt{3} \pi}{3} + \ln \frac{1}{2} = \frac{\sqrt{3} \pi}{3} - \ln 2 .$$



領域 D の面積を次のようにも計算できる. x の関数 $y = \tan^{-1} x$ を考える. $x = \tan y$, $\frac{dx}{dy} = \frac{d}{dy} \tan y = \sec^2 y$ なので $dx = \sec^2 y dy$. $x = 0$ のとき $y = 0$. $x = \sqrt{3}$ のとき $y = \frac{\pi}{3}$. 領域 D の面積は

$$\begin{aligned}
 & \int_0^{\sqrt{3}} \tan^{-1} x dx \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} y \sec^2 y dy \\
 &= \left[y \tan y - \int \tan y dy \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\
 &= \left[y \tan y + \ln |\cos y| \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\
 &= \frac{\pi}{3} \tan \frac{\pi}{3} + \ln \left(\cos \frac{\pi}{3} \right) \\
 &= \frac{\sqrt{3} \pi}{3} - \ln 2.
 \end{aligned}$$



終

問8.2.3 xy 座標平面において不等式 $x \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$ と $0 \leq y \leq \sin^{-1}x$ との連立で表される領域 D の面積を求めよ.

$-1 \leq x \leq 1$ かつ $-\frac{\pi}{2} \leq y \leq \frac{\pi}{2}$ のとき,

$$y = \sin^{-1}x \iff x = \sin y.$$

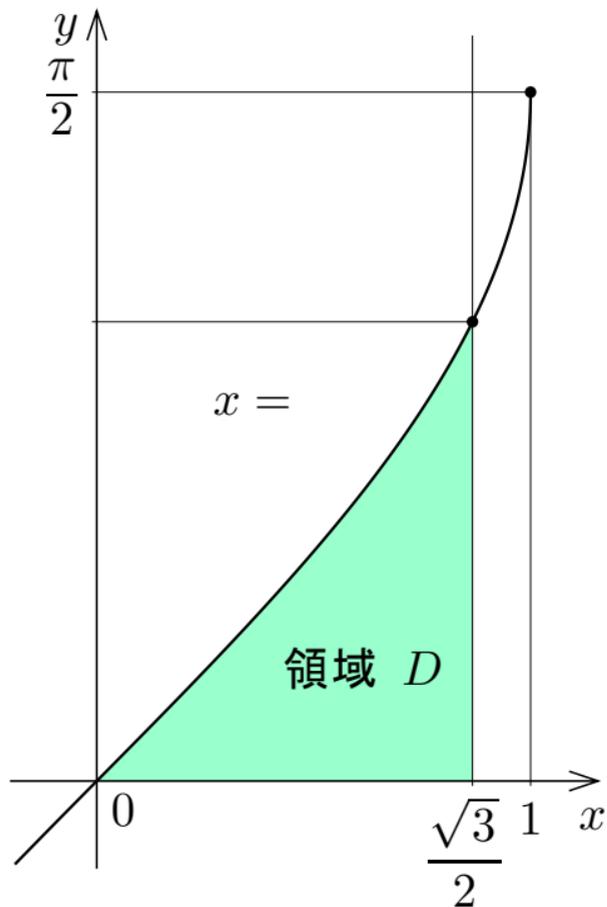
関数 $y = \sin^{-1}x$ について, $x = \frac{\sqrt{3}}{2}$ のとき

$y = \frac{\pi}{3}$ である. 領域 D の点の y

座標の範囲は $0 \leq y \leq \frac{\pi}{3}$ で, この範囲で

$x = \sin y$ である. 領域 D の面積は

$$\int_0^{\frac{\pi}{3}} (\sin y) dy =$$



問8.2.3 xy 座標平面において不等式 $x \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$ と $0 \leq y \leq \sin^{-1} x$ との連立で表される領域 D の面積を求めよ.

$-1 \leq x \leq 1$ かつ $-\frac{\pi}{2} \leq y \leq \frac{\pi}{2}$ のとき,

$$y = \sin^{-1} x \iff x = \sin y .$$

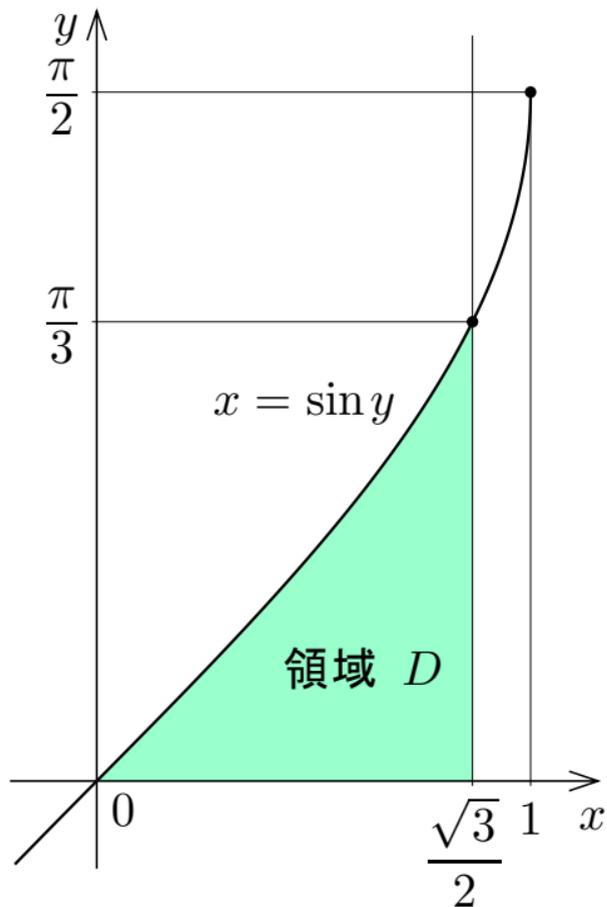
関数 $y = \sin^{-1} x$ について, $x = \frac{\sqrt{3}}{2}$ のとき

$y = \sin^{-1} \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\pi}{3}$. 領域 D の点の y

座標の範囲は $0 \leq y \leq \frac{\pi}{3}$ で, この範囲で

$\sin y \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$. 領域 D の面積は

$$\int_0 \left(\quad \right) dy =$$



問8.2.3 xy 座標平面において不等式 $x \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$ と $0 \leq y \leq \sin^{-1} x$ との連立で表される領域 D の面積を求めよ.

$-1 \leq x \leq 1$ かつ $-\frac{\pi}{2} \leq y \leq \frac{\pi}{2}$ のとき,

$$y = \sin^{-1} x \iff x = \sin y .$$

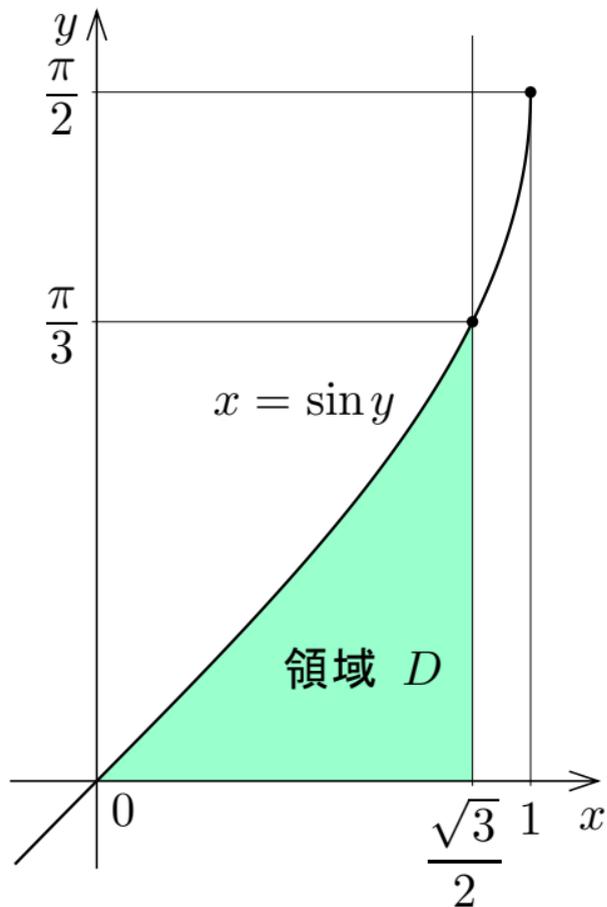
関数 $y = \sin^{-1} x$ について, $x = \frac{\sqrt{3}}{2}$ のとき

き $y = \sin^{-1} \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\pi}{3}$. 領域 D の点の y

座標の範囲は $0 \leq y \leq \frac{\pi}{3}$ で, この範囲で

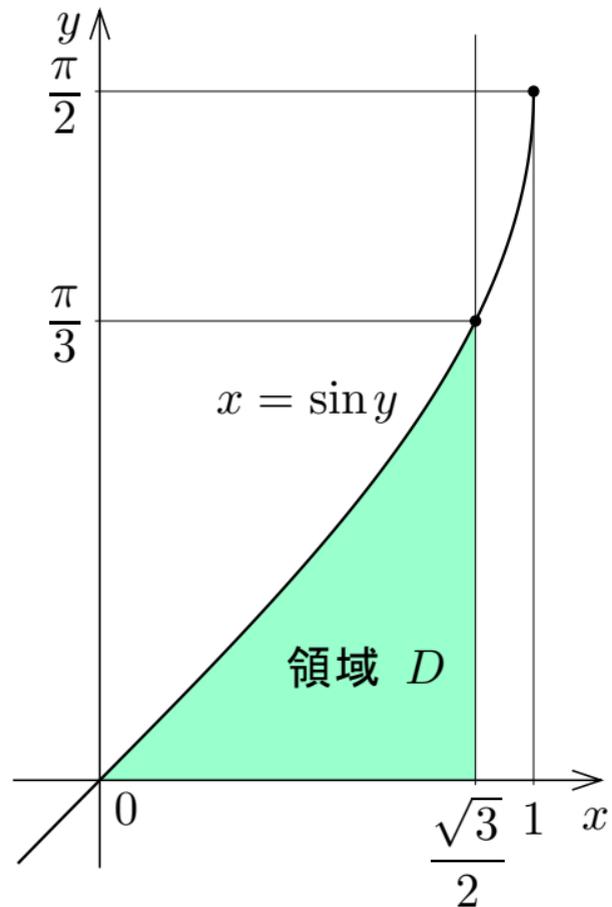
$\sin y \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$. 領域 D の面積は

$$\int_0^{\frac{\pi}{3}} \left(\frac{\sqrt{3}}{2} - \sin y \right) dy = \left[\frac{\sqrt{3}}{2} y + \cos y \right]_0^{\frac{\pi}{3}}$$



領域 D の面積は

$$\begin{aligned}\int_0^{\frac{\pi}{3}} \left(\frac{\sqrt{3}}{2} - \sin y \right) dy &= \left[\frac{\sqrt{3}}{2} y + \cos y \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \frac{\pi}{3} + \frac{1}{2} - 1 \\ &= \frac{\sqrt{3}\pi}{6} - \frac{1}{2} .\end{aligned}$$



領域 D の面積を次のようにも計算できる.

x の関数 $y = \sin^{-1} x$ を考える. $x = \sin y$,
 $\frac{dx}{dy} = \frac{d}{dy} \sin y = \cos y$ なので $dx = \cos y dy$.

$x = 0$ のとき $y = 0$. $x = \frac{\sqrt{3}}{2}$ のとき

$y = \frac{\pi}{3}$. 領域 D の面積は

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \sin^{-1} x dx &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} y \cos y dy \\ &= \left[y \sin y - \int \sin y dy \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\ &= \left[y \sin y + \cos y \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\ &= \frac{\pi}{3} \sin \frac{\pi}{3} + \cos \frac{\pi}{3} - \cos 0 \\ &= \frac{\sqrt{3} \pi}{6} - \frac{1}{2} . \end{aligned}$$

